

# 自己点検・評価報告書

2025 年度「実施計画」取組状況報告

2026 年 6月

札幌保健医療大学



## 1. 大学の概要

### 1) 学部等の構成

学 部：看護学科

栄養学科

大学院：保健医療学研究科 健康増進支援領域  
健康再生支援領域

### 2) 学生数及び教員数（2026 年 4 月 1 日現在）

#### (1) 学生数

学 部

看護学科 358人

（1 年次：106人、2 年次：78 人、3 年次：72 人、4 年次：102人）

栄養学科 142 人

（1 年次：27人、2 年次：26 人、3 年次：43 人、4 年次：46 人）

大学院

健康増進支援領域 4人

健康再生支援領域 4人

#### (2) 教員数

看護学科 30 名（専任 25人、特任6人）

（教授 12 人、准教授 6 人、講師 5 人、助教 7 人）

\* うち共通教育部門 3 人（特任教授 2 人、准教授 1 人）

栄養学科 22 人（専任 16 人、特任6人）

（教授 10 人、准教授 4 人、講師 3 人、助教 1 人、助手 4 人）

\* うち共通教育部門 4 人（教授 1 人、特任教授 2 名、准教授 1 名）

### 3) 役職者（2026 年 4 月 1 日現在）

|         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|
| 学 長     | 大日向 輝 美 | 学 部 長   | 大日向 輝 美 |
| 研究科長    | 服 部 ユカリ | 図 書 館 長 | 松 尾 文 子 |
| 教 務 部 長 | 木 津 由美子 | 学 生 部 長 | 百々瀬 いづみ |
| 看護学科長   | 近 藤 明 代 | 栄養学科長   | 坂 本 恵   |
| 共通教育部門長 | 三 瀬 敬 治 |         |         |
| 事 務 局 長 | 萩 野 浩 子 |         |         |

## 4) 教育理念

人間力教育を根幹として医療人の育成

豊かな感性

高潔な精神

確かな知力

他者との共存

## 5) 教育目的

本学の教育理念である「人間力教育」を根幹に、「豊かな感性」、「高潔な精神」、「確かな知力」を培い、「他者との共存」ができる人間力を有し、多様化する保健医療の進展と地域のニーズに対応できる実践力を備えるとともに、将来にわたり保健医療の専門性を追求し続ける保健医療専門職者を育成する。

## 6) 人材養成の目的

看護学科

看護学科では、本学の教育目的に則り、社会人としての人間力を涵養するとともに、看護学とこれに関連する保健医療福祉の幅広い知識・技術を体系的に理解し、看護を実践できる能力、多職種と連携し協働できる能力、さらに将来にわたり成長し続ける基礎的な能力を有する看護専門職者を育成する。

栄養学科

栄養学科では、本学の教育目的に則り、社会人としての人間力を涵養するとともに、栄養学とこれに関連する保健医療福祉の幅広い知識・技術を体系的に理解し、栄養の管理・指導を実践できる能力、多職種と連携し協働できる能力、さらに将来にわたり成長し続ける基礎的な能力を有する栄養専門職者を育成する。

## 7) 教育目標

- (1) 人間力を涵養し、社会の一員として社会的態度と行動をとることができる人材を育成する。
- (2) 生命への畏敬の念を抱き、人間の尊厳と多様な価値観を尊重できる人材を育成する。
- (3) 人間と環境と健康の相互作用を理解し、健康を社会的視点から捉えることができる人材を育成する。
- (4) 保健医療の専門職として求められる知識・技術・態度を有し、実践力のある人材を育成する。

- (5) 社会生活や保健医療福祉で関わる人々との連携および協働できる人材を育成する。
- (6) 保健医療福祉の諸課題への探究心を持ち、将来にわたり学修し、成長し続ける人材を育成する。

## 8) 国家試験合格率の推移

上段：本学、下段：（全国大学平均）

|       | 2021 年度          | 2022 年度          | 2023 年度          | 2024年度           | 2025年度           |
|-------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 看 護 師 | 96.4%<br>(98.2%) | 96.0%<br>(97.1%) | 85.0%<br>(95.6%) | 97.3%<br>(97.7%) | 94.7%<br>(96.3%) |
| 保 健 師 | 100%<br>(94.2%)  | 100%<br>(97.5%)  | 100%<br>(98.5%)  | 100%<br>(97.1%)  | 100%<br>(90.9%)  |
| 管理栄養士 | 66.7%<br>(92.2%) | 34.3%<br>(87.2%) | 42.1%<br>(79.6%) | 53.5%<br>(80.1%) | 37.5%<br>(79.3%) |

## 9) 進路決定率の推移

上段：就職者数（就職率）、下段：〔進学者数〕

|         | 2021 年度              | 2022 年度             | 2023 年度             | 2024年度              | 2025年度              |
|---------|----------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 看 護 学 科 | 105 (94.6%)<br>〔 1 〕 | 95 (94.1%)<br>〔 4 〕 | 91 (91.0%)<br>〔 4 〕 | 99 (98.8%)<br>〔 3 〕 | 89 (98.9%)<br>〔 5 〕 |
| 栄 養 学 科 | 20 (95.2%)<br>〔 0 〕  | 31 (86.1%)<br>〔 0 〕 | 34 (82.9%)<br>〔 0 〕 | 39 (92.9%)<br>〔 0 〕 | 48 (98.0%)<br>〔 0 〕 |

## 10) 退学者の推移

下段：（退学率%）

|         | 2022 年度 |                | 2023年度 |                 | 2024 年度 |                 | 2025年度 |                |
|---------|---------|----------------|--------|-----------------|---------|-----------------|--------|----------------|
|         | 在籍者     | 退学者            | 在籍者    | 在籍者             | 退学者     | 退学者             | 在籍者    | 退学者            |
| 看 護 学 科 | 438 人   | 7 人<br>(1.60%) | 437 人  | 10 人<br>(2.28%) | 392 人   | 7 人<br>(1.74%)  | 359 人  | 7 人<br>(1.95%) |
| 栄 養 学 科 | 194 人   | 9 人<br>(4.64%) | 208 人  | 9 人<br>(4.32%)  | 197 人   | 10 人<br>(5.08%) | 179 人  | 7 人<br>(3.91%) |

## 2. 基本計画

### 1. 教育に関する目標を達成するための事項

#### 1. 教育の質の向上に向けた取組

##### 1) 教育課程の充実化

- (1) 整合性・一貫性のあるディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを策定し、ポリシーと連動する教育課程を編成して実施するとともに、定期的な点検により、必要に応じて見直しを行う。
- (2) 教育課程に関する検証に基づき、基礎科目と専門基礎科目・専門科目の有機的連携や、大学の将来展望、時代の要請を踏まえた教育内容の充実に取り組むとともに、学生にとって魅力ある教育課程を構築する。
- (3) 研究科においては、開設時カリキュラムの検証によって抽出された諸課題について、新カリキュラムへの反映を検討するとともに、必要な改善を図る。
- (4) 道内看護系大学において初となる養護教諭1種免許取得コースを開設し、当面は文科省への申請内容に即して教育課程を展開するとともに、点検・評価を行って、必要な改善を図る。

##### 2) 学修成果の可視化

- (1) ディプロマ・ポリシーに基づく効果的・効率的な教育の実施のため、学習成果を可視化するe-portfolioの導入、学習成果に関する評価体制・方法の検討を進めるとともに、評価指標を開発・整備し、検討結果に即して運用する。
- (2) 研究科においては、アセスメント・ポリシーに沿って学習成果の評価を行い、達成状況の把握に基づいて、必要な改善を図る。

##### 3) 実施体制の整備

- (1) 学生の多様な学習活動を支援する施設・設備の充実に向けて、学内施設を活用した教育環境の整備を進めるとともに、ラーニング・コモンズ等の設置について検討し、結果に応じて対応する。
- (2) 研究科においては、モエレキャンパス、サテライトキャンパスの学修環境、授業実施体制を点検・評価し、結果に応じて改善に取り組む。

##### 4) 教育力の向上

- (1) 学部（看護学科）においては、開学から10年を経過し、モデル人形・シミュレーター等機材・機器等の劣化・損耗が進んでいること、両学科、研究科の教育研究の充実化をはかるうえで整備を要する機材・機器・設備等があることから、更新・購入を要する機材・機器等の整備計画を立案し、予算等の状況により対応する。

- (2) 教員の教育力の向上と教育内容・方法等の改善を図るため、全学的なFD体制の見直しを行うとともに、学科・研究科の特性やニーズ、高等教育環境等に応じた組織的なFD活動を推進する。

## 2. 学生支援の充実化に向けた取組

- (1) 学生の学力の向上を図り、安心かつ充実した学生生活を送ることができるよう、主体的学習を支援する体制を構築し、運用する。
- (2) 学習に困難を抱える学生や障害を有する学生への支援を推進するため、保健センターの機能の充実化を図るとともに、学内支援体制の確立に取り組む。
- (3) 学生個々の学習状況を踏まえた国家試験対策を行い、看護学科においては看護師・保健師国家試験合格率100%、栄養学科においては管理栄養士国家試験合格率向上を図る具体的な対策を検討し、実施する。
- (4) 学生個々のニーズを踏まえた就業力の育成や、就職支援のためのキャリア教育やセミナーを実施する。
- (5) 学生の学習環境の充実に寄与するため、新たな奨学金制度等の経済的支援を検討し、結果に応じて対応する。

## 3. 学生確保の安定化に向けた取組

- (1) アドミッション・ポリシーに基づく入学選抜試験を実施するとともに、入試制度を検証し、必要に応じて改善を図る。
- (2) 志願者・入学者の動向にかかる調査・分析を強化し、より効果的な志願者確保の取組を実施することにより、志願者の増加、入学定員の充足化を図る。
- (3) 高等学校との連携を強化し、高校生に対して本学への興味・関心、進学意欲を高める取組を推進する。
- (4) 看護学科においては、看護師不足に対して国・日本看護協会等が進める社会人経験者を看護職者として育成する施策に基づき、社会人入試枠の設定を検討し、結果に即して対応する。
- (5) 大学院教育の活性化のため、志願者の増加、定員の充足を図る。

## II. 研究活動の推進、研究水準の向上に関する事項

### 1. 科学研究費等外部資金の獲得に向けた取組

- (1) 外部研究資金の情報を収集し提供するとともに、科研費申請にかかる研修会の開

催やピア・レビューの実施等により若手研究者への支援を実施し、科学研究費等外部資金への応募（申請）数を増やして採択を促進する。

### 2. 研究活動の活性化に向けた取組

- (1) 地域の健康課題に寄与する研究や看護学・栄養学の融合を促す研究、科研費申請の準備的研究等に対する研究助成制度を新設するなど、学術奨励研究費助成のあり方を見直し、研究活動の活性化につなげる。
- (2) 現行の個人研究費の配分額を見直し、教育研究等諸活動の実績や研究成果に応じた研究費の配分を検討し、実施する。
- (3) 教員の研究活動に関する社会的認知を促すため、研究成果をホームページや広報誌等を通じて積極的に発信する。
- (4) 教員の海外留学・研修を支援するための制度創設を検討し、結果に応じて対応する。

## III. 地域貢献・社会連携の推進に関する事項

### 1. 地域貢献・社会連携活動の一元的運営体制の構築に向けた取組

- (1) 大学・学科において様々な形で実施されている地域貢献・社会連携活動を大学の取組として集約し、一元的な運営体制を構築することで大学の実績を可視化するとともに、地域貢献・社会連携活動を推進するための取組を展開する。

### 2. 教育研究資源、及び研究成果を社会課題の解決に向けて活用する取組

- (1) 産学官連携活動の推進により教育研究の活性化を図るとともに、本学が有する資源を社会的に還元する取組を促進する。

### 3. 地域の人々の生涯学習を支援する取組

- (1) 地域住民に対する図書館の開放や図書資源を活用した生涯学習支援に関する取組を検討し、結果に応じて対応する。
- (2) 本学を中心に地域の保育園・小学校・中学校・高等学校等との連携を推進するとともに、地域で子どもを育てる「教育連携構想」を検討し、結果に応じて対応する。

#### 4. 国際交流の推進に向けた取組

- (1) 2023年度のモンゴル国医療従事者の来学を契機とし、モンゴル国の保健医療に貢献するため交流を深める。
- (2) 多様性に対する視野を広げて国際性を高める取組を行うとともに、学生の海外研修を推進する。

#### 5. 大学間連携の推進に向けた取組

- (1) 教育研究の質の向上を目指し、大学同士が協力し、相互の教育研究資源を共有・活用する連携推進に向けた検討を行い、結果に応じて対応する。

### IV. 管理運営の改善、及び効率化に関する事項

#### 1. 教学マネジメントの確立、内部質保証体制の充実化に向けた取組

- (1) 教育を中心とする大学の諸活動の質保証を推進するため、内部質保証システムの見直しを行い、本学の特性に即した新たな内部質保証システムを構築することにより、教学マネジメントの機能化・実質化を図る。
- (2) 内部質保証の質の向上をめざし、教育に関する I R データを効率的・効果的に収集・分析し、活用する体制を整備し、運用する。
- (3) 教学マネジメント、内部質保証に関する取組に学生の参画を促し、学生の声を改善・改革に反映させる体制を構築する。

#### 2. 大学運営の改善・効率化に向けた取組

- (1) 各種委員会や会議等の再編・統合、基本計画に即した新設により、大学運営の効率性を高め、意思決定プロセスの透明化を図るとともに、大学運営に係る教職員対象の説明会等の開催、大学運営情報の発信により情報の共有化を推進し、全教職員が参画する大学運営体制を確立する。
- (2) 学長・事務局長・課長等による定期・臨時のミーティングを開催し、大学運営にかかわる諸事項を迅速・柔軟に協議・調整する体制を確立する。

#### 3. F D ・ S D の効果的实施に向けた取組

- (1) 大学運営の質を高めるため、F D と S D を融合させた研修会を実施し、高等教育政策や大学運営等に関する知識・技能を修得することにより、教職員の資質の向上を図る。

#### 4. 危機管理体制の強化に関する取組

- (1) 様々な危機に迅速かつ的確に対応するため、現行の危機管理マニュアルを改訂するとともに、危機管理体制の見直しを行い、より効率的な体制に整備する。

#### 5. 教員組織の充実化に関する取組

- (1) 大学の将来展望や変化する社会環境等に対応するため、将来構想との関連から各学科・研究科の教員組織と教員配置を検討するとともに、教員の採用・昇任・部局長の選任に係る大学方針・手続を検証し、必要に応じて改善する。
- (2) 教員のモチベーション向上を図るため、教員の業績を適正に把握するとともに、活用策を検討するため、業績評価制度の見直しを行う。

#### 6. 人権侵害のない大学環境の構築に向けた取組

- (1) ハラスメントによる学修環境・労働環境の悪化は大学の諸活動に影響するのみならず、今後の発展を害する重大なリスクであることを踏まえ、ハラスメントの撲滅を目指すとともに発生した事案に対しては迅速かつ適切に対応する。

#### 7. キャンパス環境の改善、魅力化・緑化に向けた取組

- (1) キャンパス（大学施設・設備、構内環境）の魅力化は学生募集に影響するのみならず、地域社会への貢献という意味からも重要な視点であることを踏まえ、キャンパス環境の改善、魅力化に向けた検討を行い、結果に応じて対応する。

#### 8. 情報ネットワーク環境等の充実に向けた取組

- (1) I C T や A I 等に関する教育の推進、及び大学業務の D X 化を推進して業務の効率化を促すため、情報ネットワーク環境等の充実を図る。

### V. 財務関係の改善に関する事項

#### 1. 収入の確保、予算の効率的、適正な執行に向けた取組

- (1) 学部・大学院の入学定員の確保や志願者の増加に努め、学生納付金の収入確保を図るとともに、私立大学等経常費補助金の交付額の増額に向けた取組を行う。
- (2) 支出経費の必要性や費用対効果の検証を行い、大学運営経費の適正な執行に取り組む。

## **VI. 自己点検・評価・改善、及び情報公開に関する事項**

### **1. 機関別評価、看護学教育評価の受審に向けた取組**

- (1) 2025年度の大学機関別評価、2026年度の看護学教育評価の受審に向けた体制を整備し計画的に対応するとともに、それぞれの評価基準に照らした現状把握を行い、必要に応じて改善に取り組む。

### **2. 情報公開、広報の充実化に向けた取組**

- (1) 教育・研究・社会貢献・運営に関する情報をタイムリーに公開するとともに、大学ホームページの機能を充実化して、情報公開・検索の利便性を図る。また、情報発信力を高めるための効果的な広報活動を検討し、実施する。
- (2) 個人情報保護に関する方針の明確化、ガイドラインの策定を行い、法令及び情報倫理にかかわるコンプライアンス体制を整備し、それに則って対応する。

### **3. 機関リポジトリの構築と運用に向けた取組**

- (1) 紀要に掲載された研究論文、及び学位論文等への広いアクセスを可能とするため、機関リポジトリの構築を検討し、結果に応じて対応する。

## **VII. その他**

### **1. 大学農場の効率的管理、及び農場活用の促進に向けた取組**

- (1) 本学の特徴の1つである大学農場の資源としての活用を推進するため、農場管理の機能化を検討し、結果に応じて対応する。

### **2. 看護学科の学生定員の適正化等に向けた取組**

- (1) 看護学科の学生定員の適正化、及び同学科における新たな取組みの可能性を検討し、結果に応じて対応する。

## **2. 総 括**

2025年度の懸案事項であった機関別大学評価の受審を終え、「適合」の評価を得た。提言事項は、「長所」1点、学部及び栄養学科の入学人数比率と在籍学生比率の低さに関する「是正勧告」1点であった。「長所」は、2学科合同科目「地域連携ケア論Ⅰ～Ⅳ」の取組みであり、多職種連携や地域住民との連携・協働を学ぶ機会を4年次までの必修科目とし、実践的な

場で地域課題への理解を深め、専門職の役割を考えられるような学びを提供していることに關し、卓越する取組みとして評価を受けた。評価結果は全体として高く、数年にわたる改革・改善努力が功を奏した結果となったが、質向上に向けた一層の取組みが求められる。

大学の最重要課題である学生確保に関しては、2023、24年度と70名台が続いていた看護学科において、定員80名を超える101名の入学者を得ることができた。2025年度に設置した養護教諭1種免許状取得コースの情報が高校に浸透し、志願者増につながっていると考えられる。しかし、全国的な看護職志望者の減少傾向は進行しているため、カリキュラム改革等により他大学との差別化を図るなど、独自の特長を打ち出していく必要がある。学生確保に向けた入試広報の改善・充実、リクルート活動の強化、高大連携の推進等に引き続き注力する。

2025年度の国家試験合格率は、看護師94.7%、保健師100%、管理栄養士37.5%であった。昨年度は合格率97.3%で道内看護系大学の中に位置した看護師国家試験については、今年度は下位2番目に低迷、5名の不合格者を出した。管理栄養士に関しては全国平均79.3%に遠く及ばず、全道最下位の結果となった。看護師は合格率100%、管理栄養士は全国平均の達成を目指し、各学科一丸となって対策強化に取り組む必要がある。

大学院研究科においては、2026年3月に開設後初の修了生2名を送り出し、実質的な完成となった。2025年3月に文科省のAC期間を終了、社会人学生の履修を考慮した新カリキュラムに改訂したが、入学者は開設初年の3名以降、毎年度2名に留まっており、在籍者比率は低迷している。保健医療系大学院の定員未充足は全国的な傾向となっているが、学部学生や卒業生への働きかけを強化するなど、学生確保に向けた取組みを推進する。

大学の内部質保証を支える組織として2024年10月にIR推進室を設置。その後、データの収集・蓄積、分析等を進め、2025年度末に初の「教学IRファクトブック2024」が完成し、HPで公表した。本学は他学に比してIR活動が遅れていたが、データブックの完成は、根拠に基づく教育改善につながる一歩となった。

学習支援の一環として、2025年度より、新入生を対象に共通教育部門による学習サポートを行うこととした。入学時に実施するプレイスメントテストの低得点者を対象に、専門科目と関連する化学・生物・数学の3教科の補習を行い、基礎学力を補う取組みを実施。基礎学力と学習姿勢に課題を抱える学生が漸増傾向にあり、国家試験対策にも大きく影響することから、入学時からのサポート体制を構築し、学習支援の強化を図る。

大学運営課題の1つであるガバナンスと内部質保証体制については、機関別大学評価において機能化・実質化できているとの評価を受けた。今後も継続的に小大学の見合う体制づくりを推進するとともに、一層の充実を図る。

(評価尺度)

A：順調、B：おおむね順調、C：やや遅れている、D：遅れている、E：未実施

実施計画91項目に係る評価は以下のとおり（追加1項目含まず）。

A：39項目、B：37項目、C：5項目、D：6項目、E：5項目

### 3. 主な取組

#### I. 教育に関する目標を達成するための事項

実施計画の中核を為す領域で、基本計画20項目、実施計画43項目（No.1～43）で構成、大学の中心的課題が掲げられている。評価結果については、A評価15項目、B評価23項目、C評価2項目、D評価3項目、E評価1項目で、多くは計画どおりに進められた。主な取組は次のとおり。

##### ○ 研究科の教育改善の取組み〔実施計画No.9、10〕

申請時の課題を改善した「新カリキュラム」による教育を4月から実施。新カリキュラム策定に当たり教員・大学院学生にアンケート調査を実施したところ、科目内容や栄養学・看護学の合同授業のあり方について再検討の必要性が示されたが、次期改正時の課題とした。2026年3月に開設以降初の修了生2名に修士の学位を授与した。

##### ○ ファクトブック発行、アセスメント・ポリシーに基づく評価〔実施計画No.12、13〕

アセスメント・ポリシーに定めるアセスメント・リストに基づき、IR推進室を中心に学習成果の評価に取り組んだ。加えて、IR推進室において本学初となる「教学IRファクトブック2024」を発行し、公表した。

##### ○ 入学前教育と学習支援の検証〔実施計画No.25〕

年内入試合格者を対象とする入学前教育のあり方を見直し、課題内容・方法を刷新した。2025年度からは入学前ガイダンスを対面・リモートで実施し、学生生活への動機づけを図る取組みを新たに実施、参加者からは高評価を得た。今回の取組み結果を検証し、2026年度の改善に反映させる。

##### ○ 国試対策に関わるFD活動〔実施計画No.29〕

国家試験合格率の向上を図るため、看護師国家試験対策の第一人者である池西静江氏を招聘し、FD研修会を開催した。基礎学力に課題のある学生への支援方略を検討する上での一助となった。

##### ○ キャリア支援講座の実施、就職支援改革〔実施計画No.31、32〕

新設のキャリア支援室主催で全4回のキャリア支援講座を実施。各回とも参加学生からは好評であり、就職支援の充実につながった。次年度は学生の希望も取り入れた講座を開催する。

##### ○ 養護教諭1種免許状取得コースの広報強化〔実施計画No.38〕

2025年度に設置した道内初の養護教諭1種免許状取得コースに関し、フライヤー作成、オープンキャンパスでの説明・相談、高校への情報提供を強化した結果、看護学科入学者の大幅増につながった。

#### II. 研究活動の推進、研究水準の向上に関する事項

研究活動の推進を図るため基本計画6項目、実施計画8項目（No.44～51）を設定。科研費申請支援については新たな取組みを実施した結果、新規に2名が採択された。本領域の評価については、8項目中、A評価2項目、B評価4項目、C評価1項目、D評価1項目、E評価0項目となった。主な取組は以下のとおり。

##### ○ 科研費申請サポート体制の構築〔実施計画No.45〕

科研費の応募数、採択数の増加をめざし、科研費申請サポートを行う体制を新たに整備。申請対策セミナー、申請説明会、研究計画調査アドバイザリーチェック等を実施したところ2名が新規採択され、サポート効果が認められた。

##### ○ 研究倫理の確立へ向けた取組み〔実施計画No.50〕

研究倫理委員会規程および研究倫理要項の見直し・改正を行った。研究倫理審査にあたる教職員には、日本学術振興会の研究倫理e-Learningコースとインテグリティ研修の受講を義務づけ、倫理知識の確認の上で審査に臨む体制とした。また、全教員、関係職員には年1回の研究倫理セミナー受講に加え、e-Learningの受講を必須としており、受講率は100%を維持している。

#### III. 地域貢献・社会連携の推進に関する事項

基本計画7項目、実施計画9項目（No.52～60）を設定。評価結果は、A評価2項目、B評価5項目、C評価0項目、D評価1項目、E評価1項目であり、多くは計画どおりに進められた。主な取組は以下のとおり。

#### ○ 学外者への図書館開放〔実施計画 No.56〕

大学祭に合わせて、「ふきのとう文庫」を利用したオープンライブラリを開催。また、ブックリサイクルの対象となる書籍の中から、希望する本を譲渡した。

卒業生や医療従事者を対象に図書館利用の希望に応諾。今年度利用者数は466名であった。

#### ○ 中沼・丘珠地区における教育連携構想の検討〔実施計画 No.57〕

中沼・丘珠地区の小中高校との「学びの共同体」構築のため、各校の校長を交えた意見交換会（「丘珠・中沼地区学校連携会議」）を開催し、学校間の連携強化を図ることで一致した。

### IV. 管理運営の改善、及び効率化に関する事項

大学の内部質保証を推進し、質の高い教育を行うためには、管理運営の改善・効率化が必須である。この領域は「教育」に次いで多くの項目を設定しており、2025年度は基本計画12項目、実施計画20項目（No.61～80）に取り組んだ。評価結果は、A評価15項目、B評価1項目、C評価1項目、D評価1項目、E評価2項目であり、概ね計画どおりに進捗した。主な取組は以下のとおり。

#### ○ 教学IRデータの収集及び分析・解析へ向けた取組み〔実施計画 No.62-64〕

教学IRファクトブック（「ファクトブック2024」）が完成し、学内外に公開できる体制が整った。また、教学IRに関するFDSD研修を行い、主な解析結果を示すことでIRの重要性を周知・啓発した。

#### ○ 学生との意見交換会の実施〔実施計画 No.65〕

教務委員会主催で12月に実施。両学科各学年より代表者が出席し、授業や学習にかかわる意見交換を行った。学生からは、時間割の科目配置、教科書の電子化、全授業でのレジュメ配布、連絡ツールの統一化等に関する意見が出された。これらの意見・要望を踏まえて、教務委員会等において改善策を検討し、次年度のカリキュラム運用に反映させた。

#### ○ ハラスメント防止等に関わる取組みの実施〔実施計画 No.78〕

隔年実施のハラスメント実態調査を実施したところ、前回実施時に比べてハラスメント被害等の回答は少なく、新たな対策を必要とする問題・課題は認められなかった。

#### ○ 情報ネットワーク環境の整備〔実施計画 No.80〕

ICTやAI活用に関わる、教職員への啓発等を業務とする「情報化推進委員会」を設置、活動を開始した。

### V. 財務関係の改善に関する事項

この領域については、基本計画2項目、実施計画2項目（No.81～82）に取り組み、A評価0項目、B評価2項目、C評価0項目、D評価0項目、E評価0項目であった。

### VI. 自己点検・評価・改善、及び情報公開に関する事項

2025年度は基本計画4項目、実施計画7項目（No.83～89）に取り組んだ。評価結果は、A評価3項目、B評価2項目、C評価1項目、D評価0項目、E評価1項目であった。主な取組は以下のとおり。

#### ○ 大学認証評価に向けた改善・向上の取組み〔実施計画No.83〕

大学認証評価の実地調査までに自己点検・評価によって特定された課題・問題の改善・向上に取り組んだ結果、入学定員未充足等にかかわる改善勧告以外、検討課題として指摘される事項はなかった。

#### ○ 広報基本方針・広報戦略・報道発表マニュアル策定、広報活動体制の確立〔実施計画 No.85、86〕

大学広報の充実を図るため、広報委員会において「広報基本方針」「大学広報戦略」を策定。これらに基づき「報道発表マニュアルを」作成し、FSミーティングにおいて大学広報に対する教職員の理解を促すとともに報道発表に対する協力を求めた。

#### ○ 機関リポジトリの運用〔実施計画 No.89〕

2024年度に運用を開始した機関リポジトリにおいて、本学の紀要に掲載された全論文の閲覧が可能となった。

### VII. その他

#### ○ 大学農場の活用促進の取組み〔実施計画 No.90〕

大学農場管理運営規程等に基づき、大学農場管理運営委員会を設置。農場長を中心に大学農場の管理運営をシステム化し、安定化を図った。

#### ○ 学生定員の適正化の取組み〔実施計画 No.91〕

2026年度入学生より看護学科の学生定員を100から80に減員することとなり、文部科学省への変更承認を申請した。（2025年11月5日承認）

2025 年度「実施計画」取組状況報告書

評価) A：順調、B：おおむね順調、C：やや遅れている、D：遅れている、E：未実施

| 基本計画                 |                                                                                                  | 実施計画 |                                                                                                                    | 自己点検・評価（実施状況）                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 総合<br>評価 | 今後の予定                            |
|----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|----------------------------------|
| No                   | 内容                                                                                               | No   | 内容                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |          |                                  |
| Ⅰ．教育に関する目標を達成するための事項 |                                                                                                  |      |                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |          |                                  |
| 1．教育の質の向上に向けた取組み     |                                                                                                  |      |                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |          |                                  |
| 1）教育課程の充実            |                                                                                                  |      |                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |          |                                  |
| 1                    | 整合性・一貫性のあるディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを策定し、ポリシーと連動する教育課程を編成して実施するとともに、定期的な点検により、必要に応じて見直しを行う。          | 1    | ① 新カリキュラムの検討に合わせ、「3P策定方針」に沿って3Pの見直しを行い、新3Pの策定を検討する。                                                                | 【 <b>現行3Pの見直しと改正案の検討</b> 】<br>■教職員の意見を新3Pに反映するため、4月に2回カリキュラム・グランドデザイン会議を開催し、「卒業時に学生に求める姿」等について意見交換を実施。2027年のカリキュラム改正に合わせて新3Pを策定するため、各学科でD Pの検討を進めていたところ、理事会より栄養学科閉鎖と新学科開設の方針が出されたことでカリキュラム変更方針の再検討が必要となり、3 P検討は一時中断となった。                                                                                                  | B        | ・新たなカリキュラム変更方針に即して、時期を見て検討を再開する。 |
| 2                    | 教育課程に関する検証に基づき、基礎教育科目と専門基礎科目・専門科目の有機的連携や、大学の将来展望、時代の要請を踏まえた教育内容の充実に取り組むとともに、学生にとって魅力ある教育課程を構築する。 | 2    | ① 現行カリキュラムの検証によって抽出された諸課題について、新カリキュラムへの反映を検討するとともに、カリキュラム改正スケジュールに沿って編成作業を終え、変更申請の準備を行う。                           | 【 <b>現行カリキュラムの検証に基づく新カリキュラムの検討</b> 】<br>■カリキュラム委員会においては実施計画2～7に基づき、4つの検討部会を設置して現行カリキュラムの見直しと新カリキュラムの編成作業を実施。毎月の定例委員会において部会案の検討を進めるなど2026年度申請に向けてほぼ計画に沿って作業を進めていたが、理事会より栄養学科閉鎖と新学科開設の方針が出されたことによりカリキュラム変更方針の再検討が必要となったため、カリキュラム検討は11月以降一時中断となった。また、実施計画8に基づき、各学科においても学科部会で検討を進めていたが、同様の事情により看護学科においては一時中断、栄養学科においては中断となった。 | B        | ・新たなカリキュラム変更方針に即して、時期を見て検討を再開する。 |
|                      |                                                                                                  | 3    | ② 基盤教育科目群については、これまでに検討した改善・充実方策を踏まえ、カリキュラムコンセプト（健康、暮らし、食と栄養）、及びサブコンセプト（地元、北海道、地域）に基づいて編成し、教養教育・一般教育の充実を図る。         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |          |                                  |
|                      |                                                                                                  | 4    | ③ 人間力のある医療人として社会に貢献できる能力を育成するため、現行の専門基礎科目・専門科目に係る改善・充実方策を踏まえ、カリキュラムコンセプト、サブコンセプトに基づき専門支持科目群、専門科目群等を編成し、教育内容の充実を図る。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |          |                                  |
|                      |                                                                                                  | 5    | ④ 現行カリキュラムの検証によって抽出された諸課題を踏まえ、初年次・リメディアル教育の充実、及びキャリア教育の体系化を図り、新カリキュラムに編成する。                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |          |                                  |
|                      |                                                                                                  | 6    | ⑤ AI・データサイエンス等に係る教育の充実のため、情報系科目の教育内容の見直しにより科目再編を図り、新カリキュラムに反映させる。                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |          |                                  |

|             |                                                                                                                                          |    |                                                                                                        |                                                                                                                                                                                  |   |                                                                                                                  |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|             |                                                                                                                                          | 7  | ⑥ 専門科目群等については、実践力の高い医療人に求められる知識・技術、多様化する課題への解決能力を身に付けるとともに、看護・栄養を擁する本学の特性を踏まえた特徴あるカリキュラムとなるよう科目編成する。   |                                                                                                                                                                                  |   |                                                                                                                  |
|             |                                                                                                                                          | 8  | ⑦ 各学科のカリキュラム検討に際しては、各職種の指定規則やコアカリキュラム等に定められる教育内容等を踏まえた看護学・栄養学教育カリキュラムを策定する。                            |                                                                                                                                                                                  |   |                                                                                                                  |
| 3           | 研究科においては、文科省への申請内容に即して教育課程を展開するとともに、点検・評価を行って、必要な改善をはかる。<br><br>（変更）研究科においては、開設時カリキュラムの検証によって抽出された諸課題について、新カリキュラムへの反映を検討するとともに、必要な改善を図る。 | 9  | ① 申請時カリキュラムの検証によって抽出された諸課題について、新カリキュラムへの反映を検討するとともに、共通科目群・専門科目群の見直しを行い、必要な改善を図る。                       | 【申請時カリキュラムの検証に基づく新カリキュラムの実施】<br>■新カリキュラムによる教育を4月から実施。新カリキュラムについて教員・大学院学生にアンケート調査を実施したところ、科目内容や栄養学と看護学の合同授業のあり方について再検討の必要性が示された。                                                  | A | ・新カリキュラム評価を継続し、必要な改善を図る。                                                                                         |
|             |                                                                                                                                          | 10 | ② 教育研究分野の新設を検討し、結果に応じて専門科目群に編成する。                                                                      | 【教育研究分野に関する検討】<br>■検討の結果、新カリキュラムでは、教育研究分野を新設しないこととした。                                                                                                                            | A | ・今後カリキュラムを改正する際に再検討する。                                                                                           |
| 4           | 道内看護系大学において初となる養護教諭1種免許取得コースを開設し、文科省への申請内容に即して教育課程を展開するとともに点検・評価を行い、必要な改善を図る。                                                            | 11 | ① 文科省への申請内容に即した教育内容・方法によって教育課程を展開するとともに点検・評価を行い、問題・課題が生じた場合は適宜改善を図る。                                   | 【教職課程科目の合同開講に関する検討と調整】<br>■2年次前期配置の教職課程の科目配置について合同実施の可否につきシミュレーションを行い、看護栄養両学科の合同開講が現段階では可能であるとの結論を得たため、当面合同開講とすることとした。また、次年度に向けて、新開講となる養護に関する科目の非常勤講師との打合せを実施し、授業内容・方法の検討を行った。   | A | ・合同開講の時間割配置や授業実施方法については、次年度時間割作成の際に具体的検討を行う。<br>・養護2年次は教職科目が増加するため、履修状況や学生動向の状況把握に努め、個別面談結果等を生かして必要な改善をタイムリーに行う。 |
| 2) 学修成果の可視化 |                                                                                                                                          |    |                                                                                                        |                                                                                                                                                                                  |   |                                                                                                                  |
| 5           | ディプロマ・ポリシーに基づく効果的・効率的な教育の実施のため、学習成果を可視化するe-portfolio等の導入、学習成果に関する評価体制・方法の検討を進めるとともに、評価指標を開発・整備し、検討結果に即して運用する。                            | 12 | ① 大学・学部においては、アセスメント・ポリシーに基づく学習成果の評価を継続する。学科においては、これまでに検討した評価指標に基づく評価を実施するとともに評価指標を検証し、改善が必要な場合は対策を講じる。 | 【アセスメント・ポリシーに基づく学習成果の評価】<br>■アセスメント・ポリシーに定めるアセスメント・リストに基づき、IR推進室を含む評価実施主体による学習成果の評価を実施。内部質保証推進委員会において結果検証を行い、改善の必要性等をチェックした。要改善事項については関係部局等で改善策を立案・実施するなど、内部質保証方針に基づく体制が展開できている。 | B | ・アセスメント・ポリシーに即した学習成果の評価を軌道に乗せ、教育・学習の改善につなげる。                                                                     |
|             |                                                                                                                                          | 13 | ② 大学の社会的責任を履行するため、学習成果の評価に係る各種データとその分析結果を取りまとめ、ホームページ等で公表する。                                           | 【ファクトブックの発行】<br>■教学IRファクトブック2024が完成、ホームページで公表した。                                                                                                                                 | A | ・来年度以降も継続し、教学IRファクトブックを作成する。                                                                                     |
| 6           | 研究科においては、アセスメント・ポリシーに沿って学習成果の評価を行い、達成状況の把握に基づき、必要な改善を図る。                                                                                 | 14 | ① 研究科アセスメント・ポリシーに基づく学習成果の評価を行い、課題・問題が特定された場合は、改善策を検討し実施する。                                             | 【アセスメント・ポリシーに基づく評価の実施】<br>■前期は9月、後期は2月の研究科委員会で学習成果の評価を行った。改善の必要な課題・問題はなかった。                                                                                                      | A | ・引き続き実施する。                                                                                                       |
| 3) 実施体制の整備  |                                                                                                                                          |    |                                                                                                        |                                                                                                                                                                                  |   |                                                                                                                  |
| 7           | 学生の多様な学習活動を支援する施設・設備の充実に向けて、学内施設を活用した教育環境の整備を進めるとともに、ラーニング・コモンズ等の設置について検討し、結果に応じて対応する。                                                   | 15 | ① 学生の主体的学習を促す空間を整備するため、グループ閲覧室のラーニング・コモンズへの整備及び学生ラウンジの環境改善を検討し、結果に即して対応する。                             | 【ラーニング・コモンズ整備と環境改善】<br>■アクティブラーニングエリア（旧グループ閲覧室）に隣接する大学院生研究室、演習室等のラーニング・コモンズ化を検討するため、大学院生研究室の改修レイアウト案の作成を業者に依頼し具体的な整備内容について検討を行ったが、大学事情により進捗せず。                                   | D | ・ラーニング・コモンズ設置に向けて、研究室や演習室等の再配置など関係機関との協議、改修レイアウト等の検討を進める。<br>・予算の執行の優先順位などを踏まえ、ラーニング・コモンズ及び学生ラウンジの改修は当面行わない。     |

|                  |                                                                                                                                            |    |                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |   |                                                                                                                                         |
|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8                | 研究科においては、モエレキャンパス、サテライトキャンパスの学習環境、授業実施体制を点検・評価し、結果に応じて改善に取り組む。                                                                             | 16 | ① モエレキャンパス、サテライトキャンパスを含めた学習環境、授業実施体制等について、大学院学生・教員に対するヒアリング等で抽出された課題について、必要に応じて改善策を検討する。 | <b>【学習環境・授業実施体制に関する調査の実施】</b><br><b>■</b> 前期・後期の科目担当教員にカリキュラム・学習環境に関する調査を実施した。大学院学生には3月に実施。モエレキャンパスの立地条件、オンライン授業の効率性と対面授業の効果等を考えると両者をどのように組み合わせるかが課題である。<br>サテライトキャンパスについては有効活用可能か否かが課題である。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | A | ・課題について継続して検討する。                                                                                                                        |
| <b>4) 教育力の向上</b> |                                                                                                                                            |    |                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |   |                                                                                                                                         |
| 9                | 学部（看護学科）においては、開学から10年を経過し、モデル人形・シミュレーター等の教育機器等の劣化・損耗が進行していること、研究科においては、教育研究の充実にに向けた機器等を整備する必要があることから、更新・購入を要する機器等の整備計画を立案し、予算等の状況に応じて対応する。 | 17 | ① 2023年度に策定した計画に基づき教育研究機器の整備を進めるとともに、必要に応じて整備計画の見直しを行う。                                  | <b>【教育研究機器の整備等】</b><br><b>■</b> 2023年度に策定した整備計画に関しては2024年度中にほぼ対応を完了したため、その後の教育研究機器の整備に関する各学科の事情・要望等を聴取し、優先性の高い機器等について予算範囲内で更新・購入した。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | B | ・教育研究機器の整備要望等を確認し、優先性を考慮のうえ対応する。                                                                                                        |
| 10               | 教員の教育力の向上と教育内容・方法等の改善を図るため、FDの取組を見直すとともに、学科・研究科の特性やニーズ、高等教育環境等に応じた組織的なFD活動を推進する。                                                           | 18 | ① FDSDF方針、FDSDFマップに基づくFDSDF計画を立案・実施するとともに、FDSDFマップを検証し、必要な場合は改正を行う。                      | <b>【今年度FDSDF活動とFDSDFマップの検証】</b><br><b>■</b> FDSDF方針とFDSDFマップに基づき、FDSDF委員会主催のFDSDF活動について年間計画を立案し4月に2回FDSDF研修会の実施、7月に科研費セミナー実施、3月17日に第3回FD研修会の計4回計画どおり実施。<br><b>■</b> 2025年度のFDSDF活動は、学長主催のFSミーティング（3回プラス臨時1回（2/19悪天候により延期し3/12開催予定）の計4回、ハラスメント防止対策委員会主催のハラスメント防止研修会についても本学FDSDF活動に含めている。<br><b>■</b> FDSDFマップは、2023年度作成し2024年度から教職員に配付しているが、配付のみとなっておりFDSDFマップの意味とFDSDF活動との関連等について周知が不十分であった。そこで3月17日の第4回FD研修会開始時にFDSDFマップの意味とマップを活用したFDSDF活動の目的や位置づけを説明。2026年度からは、教職員全員に業務との兼ね合いを各自調整してFDSDF活動に参加できるFDSDFマップと年間計画の配付と周知、各研修会の周知の際にFDSDFマップとの関連を追加して教職員に案内をする。<br><b>■</b> 今年度から開始した新任教員研修企画の実施は、学長・学科長・事務局と連携調整を図りながら前半部分の実施はできたが、8月に予定していた後半の大学教育に関する企画の実施が大学機関別認証評価の受審の準備・実地調査もあり実施することができなかった。次年度に向けて企画し計画的に実施するように取り組む。<br><b>■</b> FDSDFマップの検証については、2024年度と2025年度のFDSDF活動と現在のFDSDFマップを確認し、整合性のないものについて検討・改正する。本学の特性やニーズの把握、高等教育に求められる教育の教育力の向上を図る。 | B | ・2026年度のFDSDF活動の年間予定とFDSDFマップを配付し、組織的なFDSDF活動を実施する。<br>・2026年度新任教員研修企画運営し、評価検討を行い、意味ある新任教員研修プログラムを企画実施する。                               |
|                  |                                                                                                                                            | 19 | ② FDSDF研修会等各回の参加率は教職員の80%以上とし、全ての教職員の年間の参加回数は1回以上とする。                                    | <b>【FDSD研修会の参加状況】</b><br><b>■</b> 2025年度のFDSDF活動状況は、下記のとおり。<br>FDSDF委員会主催のFDSDF活動（全4回）<br><u>第1回FDSD研修会</u><br>テーマ：北海道の進学マーケットにおける看護・栄養分野の動向と今後<br>講 師：(株)リクルート地域活性営業部 北海道グループ 梅津 直弥氏<br>開催日：2025年4月2日（水）12:30～14:00<br>開催方法：対面<br><u>第2回FDSD研修会</u><br>テーマ：学力に課題のある学生への学習支援の取組み（国家試験対策に焦点を当てて）<br>講 師：Office Kyo-Shien 代表 池西 静江 氏<br>開催日：2025年4月25日（金）15:30～17:00<br>開催方法：対面（講師はリモート対応）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | A | ・FDSDF研修会の開催時期により参加率に差が生じる傾向があるため、年度当初に年間予定案を周知する。<br>・科研費セミナーは、多く教員が参加できるように実施時期を検討する。<br>・本学の立地上、臨地実習後に帰学するのは時間的に難しいため、対面とリモートの併用を検討。 |

|  |  |  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |  |  |
|--|--|--|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|
|  |  |  | <p><u>第3回F D S D研修会</u>（2025 年度科研費申請対策セミナー 1）</p> <p>テーマ：科研費採択の可能性を高める申請書作成のコツとポイント」</p> <p>講 師：本学看護学科所属 共通教育部門 教授 時野 隆至 氏</p> <p>開催日：2025 年 7 月 10 日（木）15:10～16:30</p> <p>開催方法：対面</p> <p><u>第4回F D 研修会</u></p> <p>① 講 師・テーマ：発寒東小学校 教務主任 尾形 朝良 氏「小学校における 1 人 1 台端末の活用と学校 DX」</p> <p>② 講 師・テーマ：札幌新陽高校 情報主任 尻江 重幸 氏（講演 40 分・質疑応答 10 分程度）</p> <p>開催日：2026 年 3 月 17 日（火）13：30～16：40</p> <p>開催方法：対面</p> <p>■学長主催 F S ミーティング（全 4 回）</p> <p><u>第1回</u> 議 題：①F S ミーティング開催予定（学長）、②2025 年度基本計画等に係る重点事項（学長）、③大学予算（事務局長）、④私立大学等継受費補助金（事務局長）、⑤今後の入試に関する方針（学長・入学者選抜委員会入試実施部会長）、⑥科研費等申請支援制度（学長）、⑦学習サポート（共通教育部門長）</p> <p>開催日：2025 年 5 月 15 日（木）16:50～17:50</p> <p>開催方法：対面</p> <p><u>第2回</u> 議 題：①学習サポートの実施 - 成果と課題 - （共通教育部門長）、②2024 卒業時アンケート特徴と改善の視点（共通教育部門長）、③札幌保健医療大学広報方針（事務局長）</p> <p>開催日：2025 年 9 月 11 日（木）16:50～17:50</p> <p>開催方法：対面</p> <p><u>第3回</u> 議 題：①保健センターの取組み（保健センター長）、②学習サポートの成果と課題（共通教育部門長）</p> <p>開催日：2026 年 1 月 15 日（木）17:00～17:50</p> <p>開催方法：対面</p> <p><u>第4回</u> 議 題：①教学 I R ファクトブック 2024（I R 推進室長） 、②報道発表（プレスリリース）（事務局長）</p> <p>開催日：2026 年 3 月 12 日（木）16:50～17:50</p> <p>開催方法：対面</p> <p>■ハラスメント防止対策委員会主催の F D S D 活動（全 1 回）</p> <p>テーマ：大学における多様な性の理解と対応</p> <p>講 師：にじいろほっかいどう事務局事務局長 真田 陽氏</p> <p>開催日：2025 年 10 月 23 日（木）16:50～18:00</p> <p>開催方法：対面（欠席者は後日オンデマンド視聴）</p> <p>■今年度の各回の教職員の参加のうち教職員全体で 80％以上の参加は、第 1 回 F D S D 研修会（80.2％）であった。第 2 回 FS ミーティング以降はオンデマンド視聴を実施し 100％である。</p> <p>教員（F D）・職員（S D）活動別での 80％以上の参加は、教員（F D）では、第 1 回 F D S D 研修会（94.2％）、第 2 回 F D S D 研修会（80.7％）2 回であった。第 2 回 FS ミーティング以降はオンデマンド視聴を実施し 100％である。</p> <p>また S D（職員）活動では、第 2 回 FS ミーティング以降のオンデマンド視聴を実施し、100％であった。</p> <p>各回全ての参加率 80％以上は達成できなかったが、第 3 回 F D S D 研修会（科研費セミナー）以外の各回の参加は 70％を超えており、勤務時間内での開催を考えると参加率は概ね高い。</p> <p>■第 3 回 F D S D 研修会の科研費セミナーの低参加率の要因は、2025 年度から本学では科研費等申請支援制度が開始され、本委員会企画担当の科研費セミナー 1 の実施時期と開催周知が 6 月中旬と遅くなったことが要因である。科研費セミナー 1 は、申請書作成のコツとポイントを理解して申請書記載を始めていくために必要とされることから、4～5 月の早い時期で開催することが望ましい。実施時期と研修会開催方法の検討が必要である。</p> |  |  |
|--|--|--|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|

|                                  |              |                                                                                   | <div>■全教職員の年間参加回数は、教員が 4.8 回、職員が 4.03 回と年間参加回数の 1 回以上は達成している。</div> <div>&lt;2025 年度 F D S D 研修参加状況&gt;</div> <table><tr><th>研修名</th><th>( F D )教員参加数</th><th>( S D )職員参加数</th><th>(全体)教職員参加数</th></tr><tr><td>第 1 回 F D S D 研修会</td><td>49 名(94.2%)</td><td>12 名(50.0%)</td><td>61 名 (80.2%)</td></tr><tr><td>第 2 回 F D S D 研修会</td><td>42 名(80.7%)</td><td>17 名(70.8%)</td><td>59 名 (77.6%)</td></tr><tr><td>第 3 回科研費セミナー</td><td>20 名(38.5%)</td><td>5 名(20.8%)</td><td>25 名 (32.9%)</td></tr><tr><td>第 4 回 F D S D 研修会</td><td>42 名(79.2%)</td><td>-</td><td>42 名 (79.2%)</td></tr><tr><td>第 1 回 F S ミーティング</td><td>35 名(67.3%)</td><td>18 名(75.0%)</td><td>53 名 (70.0%)</td></tr><tr><td>第 2 回 F S ミーティング<br/>(オンデマンド視聴含む)</td><td>52 名(100%)</td><td>19 名(100%)</td><td>71 名 (100%)</td></tr><tr><td>第 3 回 F S ミーティング<br/>(オンデマンド視聴含む)</td><td>51 名(100%)</td><td>22 名(100%)</td><td>73 名 (100%)</td></tr><tr><td>第 4 回 F S ミーティング<br/>(オンデマンド視聴含む)</td><td>51 名(100%)</td><td>21 名(100%)</td><td>72 名 (100%)</td></tr></table> <div>■ F D S D 研修会の開催時期により参加率に差が生じる傾向がある。そのため年度当初に年間予定の周知が必要である。また授業等で対面での出席ができない場合は、後日期間設定しオンデマンド視聴を実施し視聴後の意見等を Forms で収集していることは継続していくが、本学の立地条件から臨地実習後学内に戻ることは時間的に難しい。今後は対面とリモートでの併用一人でも多く参加できる方法を検討する。</div> | 研修名        | ( F D )教員参加数 | ( S D )職員参加数 | (全体)教職員参加数 | 第 1 回 F D S D 研修会 | 49 名(94.2%) | 12 名(50.0%) | 61 名 (80.2%) | 第 2 回 F D S D 研修会 | 42 名(80.7%) | 17 名(70.8%) | 59 名 (77.6%) | 第 3 回科研費セミナー | 20 名(38.5%)                                                                         | 5 名(20.8%) | 25 名 (32.9%) | 第 4 回 F D S D 研修会 | 42 名(79.2%) | - | 42 名 (79.2%)                                                          | 第 1 回 F S ミーティング | 35 名(67.3%) | 18 名(75.0%) | 53 名 (70.0%) | 第 2 回 F S ミーティング<br>(オンデマンド視聴含む) | 52 名(100%) | 19 名(100%) | 71 名 (100%) | 第 3 回 F S ミーティング<br>(オンデマンド視聴含む) | 51 名(100%) | 22 名(100%) | 73 名 (100%) | 第 4 回 F S ミーティング<br>(オンデマンド視聴含む) | 51 名(100%) | 21 名(100%) | 72 名 (100%) |  |  |
|----------------------------------|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|--------------|--------------|------------|-------------------|-------------|-------------|--------------|-------------------|-------------|-------------|--------------|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------|------------|--------------|-------------------|-------------|---|-----------------------------------------------------------------------|------------------|-------------|-------------|--------------|----------------------------------|------------|------------|-------------|----------------------------------|------------|------------|-------------|----------------------------------|------------|------------|-------------|--|--|
| 研修名                              | ( F D )教員参加数 | ( S D )職員参加数                                                                      | (全体)教職員参加数                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |            |              |              |            |                   |             |             |              |                   |             |             |              |              |                                                                                     |            |              |                   |             |   |                                                                       |                  |             |             |              |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |  |  |
| 第 1 回 F D S D 研修会                | 49 名(94.2%)  | 12 名(50.0%)                                                                       | 61 名 (80.2%)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |            |              |              |            |                   |             |             |              |                   |             |             |              |              |                                                                                     |            |              |                   |             |   |                                                                       |                  |             |             |              |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |  |  |
| 第 2 回 F D S D 研修会                | 42 名(80.7%)  | 17 名(70.8%)                                                                       | 59 名 (77.6%)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |            |              |              |            |                   |             |             |              |                   |             |             |              |              |                                                                                     |            |              |                   |             |   |                                                                       |                  |             |             |              |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |  |  |
| 第 3 回科研費セミナー                     | 20 名(38.5%)  | 5 名(20.8%)                                                                        | 25 名 (32.9%)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |            |              |              |            |                   |             |             |              |                   |             |             |              |              |                                                                                     |            |              |                   |             |   |                                                                       |                  |             |             |              |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |  |  |
| 第 4 回 F D S D 研修会                | 42 名(79.2%)  | -                                                                                 | 42 名 (79.2%)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |            |              |              |            |                   |             |             |              |                   |             |             |              |              |                                                                                     |            |              |                   |             |   |                                                                       |                  |             |             |              |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |  |  |
| 第 1 回 F S ミーティング                 | 35 名(67.3%)  | 18 名(75.0%)                                                                       | 53 名 (70.0%)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |            |              |              |            |                   |             |             |              |                   |             |             |              |              |                                                                                     |            |              |                   |             |   |                                                                       |                  |             |             |              |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |  |  |
| 第 2 回 F S ミーティング<br>(オンデマンド視聴含む) | 52 名(100%)   | 19 名(100%)                                                                        | 71 名 (100%)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |            |              |              |            |                   |             |             |              |                   |             |             |              |              |                                                                                     |            |              |                   |             |   |                                                                       |                  |             |             |              |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |  |  |
| 第 3 回 F S ミーティング<br>(オンデマンド視聴含む) | 51 名(100%)   | 22 名(100%)                                                                        | 73 名 (100%)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |            |              |              |            |                   |             |             |              |                   |             |             |              |              |                                                                                     |            |              |                   |             |   |                                                                       |                  |             |             |              |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |  |  |
| 第 4 回 F S ミーティング<br>(オンデマンド視聴含む) | 51 名(100%)   | 21 名(100%)                                                                        | 72 名 (100%)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |            |              |              |            |                   |             |             |              |                   |             |             |              |              |                                                                                     |            |              |                   |             |   |                                                                       |                  |             |             |              |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |  |  |
|                                  | 20           | ③ 他大学及び学協会等が主催する F D S D への参加状況を把握し、教職員の F D S D 活動の実績とする。                        | <div>【外部主催の FDSD 活動状況】</div> <div>■今年度の本学教職員の他大学及び学協会等主催の F D S D 参加状況は下記のとおり。</div> <div>&lt;2025 年度他大学及び学協会等主催の F D S D 研修への参加状況：前期のみ&gt;</div> <table><tr><th>活動区分</th><th>対象</th><th>総数</th><th>前期参加</th><th>後期参加者</th><th>計</th></tr><tr><td>F D 活動</td><td>教員</td><td>52</td><td>15 (28.9%)</td><td>10 (19.2%)</td><td>25 (48.1%)</td></tr><tr><td>SD 活動</td><td>職員</td><td>21</td><td>3 (14.3%)</td><td>4 (19.0%)</td><td>7 (33.3%)</td></tr></table>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 活動区分       | 対象           | 総数           | 前期参加       | 後期参加者             | 計           | F D 活動      | 教員           | 52                | 15 (28.9%)  | 10 (19.2%)  | 25 (48.1%)   | SD 活動        | 職員                                                                                  | 21         | 3 (14.3%)    | 4 (19.0%)         | 7 (33.3%)   | B | ・ 2026 年度も教職員の外部主催の F D S D 活動の参加状況の把握を継続しデータを集積し、本学の教職員の研修参加状況を分析する。 |                  |             |             |              |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |  |  |
| 活動区分                             | 対象           | 総数                                                                                | 前期参加                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 後期参加者      | 計            |              |            |                   |             |             |              |                   |             |             |              |              |                                                                                     |            |              |                   |             |   |                                                                       |                  |             |             |              |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |  |  |
| F D 活動                           | 教員           | 52                                                                                | 15 (28.9%)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 10 (19.2%) | 25 (48.1%)   |              |            |                   |             |             |              |                   |             |             |              |              |                                                                                     |            |              |                   |             |   |                                                                       |                  |             |             |              |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |  |  |
| SD 活動                            | 職員           | 21                                                                                | 3 (14.3%)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 4 (19.0%)  | 7 (33.3%)    |              |            |                   |             |             |              |                   |             |             |              |              |                                                                                     |            |              |                   |             |   |                                                                       |                  |             |             |              |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |  |  |
|                                  | 21           | ④ 昨年度変更した授業評価の内容・方法を検証し、必要な場合は改善を図る。加えて、教育改善に役立つ評価結果の活用方法について引き続き検討し、結果に基づいて対応する。 | <div>【授業評価アンケートの回答・集計状況】</div> <div>■授業評価アンケートは、Forms から Campus Plan を使用方法に変更。学生にはアンケートの目的・方法等についてガイダンス時に口頭説明を行ったほか、Teams で周知を図った。Campus Plan では、授業評価アンケートの未回答科目が表示されることから学生は回答状況を把握しやすいこと、担当事務は未回答学生の状況把握が行えるため、時期をみたアンケート協力へのリマインドをしやすいなどのメリットがあり、回答率は 2024 年度より上昇した。</div> <div>&lt;2024・2025 年度前期回答率&gt;</div> <table><tr><th>授業形態</th><th>2024 年度前期回答率</th><th>2025 年度前期回答率</th></tr><tr><td>講義</td><td>45.2%</td><td>61.6%</td></tr><tr><td>演習</td><td>46.0%</td><td>64.6%</td></tr><tr><td>臨地実習</td><td>26.9%</td><td>37.1%</td></tr></table> <div>【教育改善に役立つ授業評価アンケート結果の活用方法の検討】</div> <div>■授業評価アンケート結果の活用については、まずは科目担当教員に授業改善への活用を確認する必要がある。結果の活用状況については、2026 年度にアンケート調査を企画実施する方向で進める。また、現行の講義用授業評価アンケートは改善を求める項目はあるが、良かった点についての項目があるとよいと教員から要望があり、次年度から追加修正をして行う。</div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 授業形態       | 2024 年度前期回答率 | 2025 年度前期回答率 | 講義         | 45.2%             | 61.6%       | 演習          | 46.0%        | 64.6%             | 臨地実習        | 26.9%       | 37.1%        | B            | ・ 授業評価アンケート結果活用について、科目担当教員に実態を確認し、結果に応じて対応を検討。<br>また、授業評価アンケートに「良かった点」を回答する項目を追加する。 |            |              |                   |             |   |                                                                       |                  |             |             |              |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |  |  |
| 授業形態                             | 2024 年度前期回答率 | 2025 年度前期回答率                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |            |              |              |            |                   |             |             |              |                   |             |             |              |              |                                                                                     |            |              |                   |             |   |                                                                       |                  |             |             |              |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |  |  |
| 講義                               | 45.2%        | 61.6%                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |            |              |              |            |                   |             |             |              |                   |             |             |              |              |                                                                                     |            |              |                   |             |   |                                                                       |                  |             |             |              |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |  |  |
| 演習                               | 46.0%        | 64.6%                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |            |              |              |            |                   |             |             |              |                   |             |             |              |              |                                                                                     |            |              |                   |             |   |                                                                       |                  |             |             |              |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |  |  |
| 臨地実習                             | 26.9%        | 37.1%                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |            |              |              |            |                   |             |             |              |                   |             |             |              |              |                                                                                     |            |              |                   |             |   |                                                                       |                  |             |             |              |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |                                  |            |            |             |  |  |

| 2. 学生支援の充実化に向けた取組み         |                                                                                                   |    |                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                        |
|----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1) 学修支援・生活支援の体制整備、進路支援の充実化 |                                                                                                   |    |                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                        |
| 11                         | 学生の学力の向上をはかり、安心かつ充実した学生生活を送ることができるよう、主体的学習を支援するための体制を構築し、運用する。                                    | 22 | ① 学生の学力向上を図るとともに、主体的な学習行動の獲得を支援する学生サポートサロン（仮称）の設置等を含む新たな学習支援体制を構築し、運用を開始する。                                                              | <b>【学習支援の取組みと改善】</b><br><b>■</b> プレイスメントテストは従来の3科目に加え数学を実施し、学習サポートに繋げた。また、テスト結果に基づき対象者の選定基準などを明確化した。<br><b>■</b> 学習支援体制を構築し、各科目4回で総計12週間のサポートを受講。少人数指導を考慮し、1指導を2コマ展開で行った。受講者アンケートから学習効果の実感や成績の向上も見られた反面、基準対象学生の出席のばらつきも見られ、課題の検証を行った。                                                                                                          | A<br>・学習支援体制の充実の観点から、指導教員の更なる充実を計画し、学生の要望を生かした体制とする。<br>・学生アンケートからは「演習中心学習」などの要望もあることから、指導方法や教材の工夫について検討する。<br>・学習サポートの充実の一環として科目設定（単位化）について関係組織と検討する。 |
|                            |                                                                                                   | 23 | ② 正課内外の活動に関わる学生の主体的行動を促すため、諸活動の活性化に向けた支援を行うとともに、学友会が安定的に運営されるよう支援的関わりを継続する。                                                              | <b>【正課内外の学生の主体的行動を促す取組み】</b><br><b>■</b> 課題活動の1つであるサークル活動として14団体が組織され、地域で行われるイベントに積極的に参加するなど活発な活動が展開された。学友会及び実行委員会を組織して行われる大学行事（体育大会、大学祭など）には、主体的な取組みが見られた。教職員は、これらの取組みを今後継続できるように記録し、引継ぎを円滑に行うように後方支援に努めた。<br><b>■</b> 学生の学習環境の充実に寄与するため、奨学金制度等の経済的支援の検討・運用を適宜行った。                                                                            | B<br>・学友会が安定的に運営されるよう支援的関わりを継続して実施していけるように検討していく。                                                                                                      |
|                            |                                                                                                   | 24 | ③ 2025年度入学生に対する入学前教育の検証結果に基づき、2026年度入学生対象の入学前教育、リメディアル教育を企画・実施する。                                                                        | <b>【入学前教育の成果と課題の検討】</b><br><b>■</b> 共通教育部門において2025年度入学生に対する入学前教育の成果と課題を検討。2026年度入学生に対しては、同部門と入学者選抜委員会が合同で入学前教育を企画・実施し、入学後のリメディアル教育との連結を図る方向で検討を進める。<br><b>■</b> 入学前教育の成果と課題を計画にする中で、2027年度からの学習サポートとの一貫性ある学びの継続の観点から、克服すべき課題や改善策を検討した。                                                                                                         | B<br>・入学者選抜委員会と合同協議を今後も数度行う中で、本年度実施の入学前教育及び学習サポートそれぞれの検証を行い、次年度以降の在り方を明確にする。                                                                           |
|                            |                                                                                                   | 25 | ④ カリキュラム改正とも関わり、入学前教育ーリメディアル教育ー学習サポートのあり方を検討し、2027年度入学予定者から新たな内容・方法による支援活動が実施できるよう準備を進める。                                                | <b>【入学前教育と学習支援の検証】</b><br><b>■</b> 2025年度入学生で年内合格決定者を対象に入学前教育の推進、入学前ガイダンス、2025年度プレイスメントテストの成績をもとにした学習サポートの結果を確認した。<br><b>■</b> 部会（「基礎教育科目、初年次教育、リメディアル教育」担当部会）において、学生の強化すべき点、看護学・栄養学を履修するにあたり必要な知識・課題を明確化。                                                                                                                                     | B<br>・入学前教育ーリメディアル教育ー学習サポートのあり方に関しては、カリキュラム委員会、入学者選抜委員会、共通教育部門が連携して検討を進める。                                                                             |
|                            |                                                                                                   | 26 | ⑤ 国家試験対策を含め学生の学力向上を支援するため、小集団を軸とした学修活動の旺盛な展開を意図した小集団教育への補助制度を検討し、結果に応じて対応する。                                                             | —                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | —                                                                                                                                                      |
| 12                         | 学習に困難を抱える学生や障害を有する学生への支援を推進するため、学習支援と健康支援の充実化を図り、支援体制の確立に取り組む。                                    | 27 | ① 「障害のある学生への支援に関するガイドライン」に基づき、学科・委員会等の関係組織と保健センターが連携し、合理的配慮を要する学生等への個別的支援を実施する。加えて、ガイドライン等の内容等を点検するとともに支援体制を検証し、結果に応じて改善を図る。             | <b>【保健センター連携による支援体制の見直しと推進】</b><br><b>■</b> サポート体制について、保健センターとの連携を密にとるためにガイドラインの見直しと改善を行った。<br><b>■</b> 前年度からの要配慮・要支援学生及び今年度入学生について検討確認し、支援の継続等について委員会で検討し、サポートチームを編成し支援を進めた<br><b>■</b> 障害学生支援委員会と保健センターの役割を明確にして取り組んだ。具体的には、障害学生支援委員会で確定した要配慮、要支援学生に対する健康支援は保健センターが中心に、講義や学外実習などの教学面での支援はサポートチームが中心に行ってきた。また、必要に応じて相互の情報共有を密にしながら学生支援に取り組んだ。 | A<br>・ガイドラインに沿った要配慮・要支援の手続きを遅延なく行うための方策を検討する。<br>・今後も多様な支援や配慮の必要な学生が増えることが予想される。学科及びサポートチームとの連携や確認、障害学生支援委員会と保健センターが情報共有を遅滞ないように進めていく。                 |
| 13                         | 学生個々の学習状況を踏まえた国家試験対策を行い、看護学科においては看護師・保健師国家試験合格率100%、栄養学科においては管理栄養士国家試験合格率向上を図るための具体的な対策を検討し、実施する。 | 28 | ① 4年次学生に関しては、各学科において、2024年度国家試験合格状況と国家試験対策に係る検証・評価を行うとともに、その結果に基づき有効な対策を立案・実施する。1～3年次学生の国試対策については、各学科において具体的な計画を立案・実施し、都度の点検・評価により改善を図る。 | <b>【国家試験対策の充実に向けた取組み】</b><br><b>■</b> 看護学科<br>・月例報告として学科会議及び内部質保証推進委員会も国試対策を報告、情報共有を図るとともに意見交換を実施。<br>・個別指導はゼミ担、集団的な支援を国家試験対策部会が中心となり実施した。対策部会では、模試結果で正答率が低い領域を中心に補講を行った。<br>・都度学生の意見を反映しながら空き教室の活用ができるように学修環境の整備を実施した。                                                                                                                        | C<br>看護学科<br>・2025年度国家試験結果及び学生からの対策に関するアンケートをもとに、次年度に向けた対策を再検討する。<br>・習熟度別のクラス分けをした補講の実施、医学書院のWEBサービスを活用した個別の学修を見える化しながら継続的に学習支援していく。                  |

|    |                                                |    |                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |   |                                                                                                                                                 |
|----|------------------------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    |                                                |    |                                                                                                        | <p>・看護師に関しては全５回、保健師に関しては全３回の業者模試に加え、自己模試等を複数回実施した。そのほか、少数であるが個人で受験希望者は業者の模試を受験し、繰り返し解きなおしをして継続的な学修ができていた。</p> <p>・模擬試験実施日に欠席するものが毎回少数みられた。病欠の欠席理由のほか自己都合欠席の学生はいつも同じ学生の傾向であった。模試の欠席者対応に時間を要したため、全体の結果把握が遅れ、学習要支援者の検討及び決定が遅れることがあった。要支援者確定後は速やかに補講等の実施をしたが、１１月の模試での選定が遅れたことに加え、連絡が取れない学生の場合は年末年始の対応が十分にできなかった学生も少数みられた。</p> <p>・学習状況の確認及び個別支援の実施について、部会教員とゼミ担とで情報共有しながら支援を進めることができた。</p> <p>・定期的に連絡する周知と情報の確認を大学共有フォルダ上で実施し、会議時に学科全体で共有を図ることができた。しかし一部の学生は連絡が取れない状況が数名あり対応に苦悩した。</p> <p>・科目担当教員間で調整をして補講を実施した。</p> <p>・各学年の国家試験対策委員と学担兼務の部会教員が中心となり学生の意見を反映し、対策の内容や方法・時期について一緒に検討し、学科全体で情報を共有した。</p> |   | <p>・連絡が取れない学生、補講に参加しない学生、登校が少ない学生が得点をあげられない状況になっていることが課題であった。４年次早期からゼミ担との関係性の構築に努め、３年次までの学担と情報を共有しながら学生の特性を早期に把握して学習支援をしていく。</p>                |
|    |                                                |    |                                                                                                        | <p>■栄養学科</p> <p>・４年生の対策は、検証、評価に基づき対策を立てた。自宅で学習する学生が多かったことから、オンラインやオンデマンドも活用し、学科教員の対策講座を実施した。また、質問箱を Teams に設定し質問を受け付けた。学生ひとりひとりの取組み方が異なるため、面談を重ね、進め方を話し合うことで、納得がいく学習をサポートすることはできたと考えていたが、２０２５年度の国家試験結果は４８名が受験し１８名（３７．５％）の合格であり、２０２４年度の５３．５％よりも低い結果となった。外部業者の対策講座については、出席率が非常に低いため、次年度からは縮小し、学内教員で対応していく体制を整える。１～３年生は、授業での国家試験問題のノート作りや、長期休暇中の課題を設定した。休暇明けには確認テストを行い、全員が合格点に達するまで繰り返し実施した。来年度も継続していく。</p>                                                                                                                                                                                           | D | <p>栄養学科</p> <p>・学生が国家試験勉強に本格的に取り組むタイミングとこちらが提示する対策のタイミングが合致するよう、学生の意見を尋ねながら、より効果的な時期を考慮し対策を立てていく。各学年で得た知識を継続する方法を検討、実施していく。</p>                 |
|    |                                                | 29 | ② 国家試験対策に係る F D 研修や各学科の国家試験対策を強化するための方略を検討・実施し、国試対策に関わる教員の教育力の向上を図るとともに有効な国試対策の実施につなげる。                | <p>【国試対策に関わる F D 活動】</p> <p>■第２回 F D S D 研修会において、国家試験対策で実績のある池西静江氏を講師に招聘。国家試験対策の一助とするため、学力に課題のある学生に対する支援活動の実際について、講師の具体的な取組みを紹介してもらった。終了後アンケートによれば研修会に対する参加者の評価はほぼ肯定的であったが、内容は看護学生を対象とするものであったため、管理栄養士国家試験対策の取組みを聞きたいといった意見もあった。</p> <p>テーマ：学力に課題のある学生への学習支援の取組み（国家試験対策に焦点を当てて）</p> <p>講 師：Office Kyo－Shien 代表 池西 静江 氏</p> <p>開催日：２０２５年４月２５日（金）１５：３０～１７：００</p> <p>開催方法：対面（講師はリモート対応）</p>                                                                                                                                                                                                           | A | <p>・国家試験対策の F D 研修は、教員の国試対策や対象を共通認識することができるため、２０２６年度も企画を検討する。</p>                                                                               |
|    |                                                | 30 | ③ 各学年に国家試験対策委員をにおいて教員との連携を密に図り、模擬試験の自主運営等に関与させるなど、学生自身の学ぶ姿勢を重視するとともに国家試験対策に対する学生の主体的な取組を促す方略を検討し、実施する。 | <p>【国家試験対策委員の選出及び連携】</p> <p>■看護学科</p> <p>学生の国家試験対策委員と情報交換をしながら学生ニーズに合わせた補講を実施した。受講した学生からはわかりやすかった等の高評価であった。</p> <p>■栄養学科</p> <p>各学年に国試対策委員を配置した。学年担任と国試対策委員が相談しながら、休暇中の課題を設定したり、３年生については模試も自主運営させたりしたことで、教員からの一方的なアプローチではなく自ら学ぶ姿が増え、主体的な学習につながった。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | B | <p>看護学科</p> <p>・国家試験対策に関わる学生との連携を強化する。</p> <p>栄養学科</p> <p>・４年生は個別に面談を行い個々の学生の希望に沿った対策を行う。１～３年生は、各学年の到達点を伝えながら国家試験対策委員と教員と相談し国試対策内容を検討、実施する。</p> |
| 14 | 学生個々のニーズを踏まえた就業力の育成や、就職支援のためのキャリア教育、セミナーを実施する。 | 31 | ① ２学科合同の就職活動準備講座の開催等、大学企画の就職支援プログラムを企画・実施するほか就職支援の充実を図る。                                               | <p>【キャリア支援講座の実施】</p> <p>■以下のキャリア講座を開催した。</p> <p>１年生：コミュニケーション講座_２０２６年１月１９日（月）３限目</p> <p>２年生：マナー講座_２０２５年１２月９日（火）４限目</p> <p>３年生：社会保険・求人票の見方講座_２０２５年１１月２７日（木）２限目</p> <p>３年生：履歴書の書き方講座_２０２５年１２月１８日（木）３限目</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | A | <p>・キャリア支援講座の参加率向上のため、実施日時を工夫する。また、学生の希望調査を含め、継続して実施内容を検討する。</p> <p>・両学科担当者との情報共有を密に行い、学生の利益を高めるように連携して対応を行う。</p>                               |

|  |    |                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |   |                                                          |
|--|----|-------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|----------------------------------------------------------|
|  |    |                                                                               | <p>【学科キャリア支援部会との連携】</p> <p>■学科主催のキャリア支援活動を実施した。</p> <p>看護学科：キャリアビジョンセミナー</p> <p>栄養学科：企業研究会</p> <p>【学科国家試験対策部会との連携】</p> <p>■模試申し込み、発送、精算等の事務業務を、両学科担当者と協力し対応した。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |   |                                                          |
|  | 32 | <p>② 各学科において、従来の就職支援のあり方を検証・評価し、学生の意見・要望をとり入れるなどして、より効果的な取組となるよう検討し、実施する。</p> | <p>【学生の意見を反映した就職支援】</p> <p>■看護学科</p> <p>1. 各学年における就職支援内容と時期に関する検討を行い、以下の取組を実施した。</p> <p>1) 前期は、各学年のガイダンスで、就職活動を進めるにあたっての留意事項やキャリア支援部会が実施する支援内容やスケジュールについて説明した。後期は、3年次生に具体的な就職活動の進め方やスケジュールについて説明した。また3年次生に就職活動の進捗状況について2月にアンケートを実施し、その結果では9割以上の学生が就職説明会やインターンシップなどへ参加していた。</p> <p>2) 10月に1年次生を対象にキャリアビジョン start-up セミナーを実施した。卒業生に講師を依頼し、看護師、助産師、保健師、大学院に関して具体的な体験を話していただいた。1年生61名の参加があり、アンケート結果でもほとんどの学生が、自分の進路・就職を考えるための参考になったと回答があった。</p> <p>3) 11月に3年次生を対象にキャリアビジョンセミナーを実施した。16行政機関と24医療機関が来学され、現場の実際について説明していただいた。3年次生85名が参加、行政機関の説明会には、公衆衛生看護学の履修を希望する1年次生8名、2年次生6名が参加した。実施後のアンケートの結果からは、全体として学生の満足度は高かったが、一部から希望した機関の説明を聞くことができなかったという自由記載があったため、次年度は参加方法を検討する。行政機関・医療機関からは、対面で直接学生へ説明できた点について肯定的な意見が得られた。</p> <p>4) 7月に3年次生の公衆衛生看護学履修生を対象に東京アカデミーによる公務員試験ガイダンスを実施した。20名が参加し、実施後のアンケート結果からも公務員試験の実際が分かった等好評であった。また道内市町・保健所のインターンシップ参加につながった。</p> <p>5) 12月に3年次生を対象に株式会社マイナビによる就職活動スタートアップガイダンスを実施した。91名が参加し、実施後のアンケート結果では、セミナーの内容・方法ともに評価が高かった。しかし、開催時期については、複数の学生から遅いと回答があった。採用試験の早期化が進んでいることから、次年度からは開催時期を早める必要がある。</p> <p>2. 進路支援課と連携し、就職活動に関連した情報を学科内で共有を図る。</p> <p>・進路支援課と就職活動に関連した情報について Teams や共有フォルダにアップしてもらうなど共有化を図り、必要な内容については、学科会議で報告した。</p> <p>■栄養学科</p> <p>1) 1年次から4年次までのキャリア教育について、「就職活動のてびき」を基に内容の再検討を行うとともに、学科内におけるキャリア支援活動の“見える化”を進めることを目標として取り組んだ。毎月の学科会議において部会から進捗報告を行う体制を整えたことで、学科内での情報共有が促進され、協力体制の強化につながった。</p> <p>2) 4年次学生に対しては、学担、キャリア支援室、キャリア支援部教員、進路支援課が連携し、個々の進路希望を把握したうえで、相談対応や面接練習等を個別にきめ細かく実施した。その結果、学生一人ひとりに対して納得度の高い支援を提供できた。</p> <p>3) 4年次の学生が積極的に就職活動に取り組めるよう、企業が開催する合同説明会への参加を継続的に勧奨してきた。また、3年次を対象として、進路支援課の協力のもと、自己分析や履歴書作成等に関する講座を実施し、早期のキャリア形成支援を進めることができた。一方で、年度末に予定していた2年次に向けた就職支援講座は、雪害の影響により延期を余儀なくされ、次年度早期に開催できるよう計画を調整している。</p> <p>4) 昨年度に初めて実施した就職説明会（「あなたの将来を考えてみるセミナー」）が好評であったことから、今年度も12月に継続開催した。今年度は2・3年次を対象とし、参加学生の満足度は約90%、参加企業・団体（11団体）の満足度は100%と非常に高い評価を得た。</p> <p>5) 新たな取組みとして、奨学金返還支援制度を設けている北海道内自治体の情報を整理し、2年次及び3年次の学生に対して提供を行った。これにより、学生が将来の進路選択において経済的負担を考慮しやすい環境づくりに寄与できた。</p> | A | <p>・看護学科、栄養学科ともキャリア支援の取組みは効果的であったことから、改善を図りつつ継続実施する。</p> |

|                    |                                                                      |                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |      |                                    |        |       |      |        |       |    |      |    |    |    |    |    |    |     |      |    |    |    |    |    |    |    |   |                         |
|--------------------|----------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------------------------------------|--------|-------|------|--------|-------|----|------|----|----|----|----|----|----|-----|------|----|----|----|----|----|----|----|---|-------------------------|
| 15                 | 学生の学習環境の充実に寄与するため、新たな奨学金制度等の経済的支援を検討し、結果に応じて対応する。                    | 33                                                                                                                                                                                                  | ① 他大学を参考に、学内における新たな奨学金制度を検討し、結果に応じて対応する。                                                                                                                             | 【学習環境の充実を目指した調査】<br><br>■私大協道支部の学生生活指導研究協議会を通じて各大学の実情について調査を行ったが、本学が実施している奨学金制度との大きな相違はないことが判明。吉田学園専門学校群が行っている、保護者が吉田学園の卒業生である場合の支援を大学にも導入することとした。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | A    | ・経済的支援については、必要に応じて検討する。            |        |       |      |        |       |    |      |    |    |    |    |    |    |     |      |    |    |    |    |    |    |    |   |                         |
| 3. 学生確保の安定化に向けた取組み |                                                                      |                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |      |                                    |        |       |      |        |       |    |      |    |    |    |    |    |    |     |      |    |    |    |    |    |    |    |   |                         |
| 16                 | アドミッション・ポリシーに基づく入学者選抜試験を実施するとともに、入試制度を検証し、必要に応じて改善を図る。               | 34                                                                                                                                                                                                  | ① 学科A Pに基づく学生確保を促進するため、各種入学者選抜試験の内容・方法を検証・評価し、問題・課題がある場合は改善策を検討・実施する。                                                                                                | 【入試制度・方法に関する評価と改善】<br><br>■入試実施部会において他大学の総合型入試を参考に試験のあり方を見直し、高校の進路探究活動に関する取組みを確認する内容・方法に改め、2026年度の総合型入試に導入した。前期・後期の総合型入試結果の点検・評価により改善課題が確認できたため、2027年度入試では更なる改善を図る。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | B    | ・2026年度入試の結果を踏まえ、総合型入試の内容・方法を改善する。 |        |       |      |        |       |    |      |    |    |    |    |    |    |     |      |    |    |    |    |    |    |    |   |                         |
| 17                 | 志願者・入学者の動向に係る調査・分析を強化し、より効果的な志願者確保の取組を実施することにより、志願者の増加、入学定員の充足化を図る。  | 35                                                                                                                                                                                                  | ① 志願者・入学者の動向や入試結果の調査・分析を行い、結果に基づいて対策を検討し、実施する。                                                                                                                       | 【志願者・入学者の動向分析に基づく入試広報の実施】<br><br>■過去の出願者・入学者の出身校や居住地等の傾向を分析し、重点校に対する高校訪問や進学相談会等の広報活動の強化を図った。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | B    | ・引き続き実施する。                         |        |       |      |        |       |    |      |    |    |    |    |    |    |     |      |    |    |    |    |    |    |    |   |                         |
|                    |                                                                      | 36                                                                                                                                                                                                  | ② 志願者・入学者の動向把握や、入学時アンケート、他大学調査を参考に、大学案内・ホームページ・高校訪問・オープンキャンパス・SNS等の入試広報活動の見直しを行い、より効果的な方法で大学情報を発信できるようにする。また、入試広報活動に対する学生の参画を検討し、学生、教職員の連携・協働による取組を推進する。             | 【入試広報活動の改善・強化】<br><br>■入学者選抜委員会の入試実施部会及び学科オープンキャンパスワーキングを中心に各学科のオープンキャンパス内容・方法を検討し、進路支援課と連携・協働して計6回開催。各回の企画に際しては、前年度及び各回の参加状況やアンケート結果を踏まえ、本学がより身近に感じられるイベントとなるようその都度、内容・方法を見直す等の検討を行った。高校生の大学選択ポイントは親しみやすい雰囲気であるとの予備校情報をもとに、参加者への対応は学生スタッフ中心で行い、参加者一学生の接触機会を増やすことで大学に対する親近感を高めるプログラムとした。また、高校生の進路選択には保護者の意見が大きく影響するため、両学科において保護者の理解を促すためのプログラムを設定し、学科長、進路支援課長等が対応した。<br><br>＜オープンキャンパス開催状況、参加者数＞ <table><tr><td></td><td>6月14日</td><td>7月26日</td><td>8月2日</td><td>9月6日</td><td>11月29日</td><td>3月28日</td><td>合計</td></tr><tr><td>看護学科</td><td>61</td><td>43</td><td>56</td><td>33</td><td>41</td><td>47</td><td>281</td></tr><tr><td>栄養学科</td><td>20</td><td>15</td><td>14</td><td>10</td><td>13</td><td>24</td><td>96</td></tr></table> |      | 6月14日                              | 7月26日  | 8月2日  | 9月6日 | 11月29日 | 3月28日 | 合計 | 看護学科 | 61 | 43 | 56 | 33 | 41 | 47 | 281 | 栄養学科 | 20 | 15 | 14 | 10 | 13 | 24 | 96 | B | ・2026年度入試広報方針に基づいて対応する。 |
|                    |                                                                      |                                                                                                                                                                                                     | 6月14日                                                                                                                                                                | 7月26日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 8月2日 | 9月6日                               | 11月29日 | 3月28日 | 合計   |        |       |    |      |    |    |    |    |    |    |     |      |    |    |    |    |    |    |    |   |                         |
|                    |                                                                      | 看護学科                                                                                                                                                                                                | 61                                                                                                                                                                   | 43                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 56   | 33                                 | 41     | 47    | 281  |        |       |    |      |    |    |    |    |    |    |     |      |    |    |    |    |    |    |    |   |                         |
| 栄養学科               | 20                                                                   | 15                                                                                                                                                                                                  | 14                                                                                                                                                                   | 10                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 13   | 24                                 | 96     |       |      |        |       |    |      |    |    |    |    |    |    |     |      |    |    |    |    |    |    |    |   |                         |
| 37                 | ③ 入学者選抜委員会において、他大学の取組みや外部の意見を参考にしながら、学生確保につながる入学試験前後の働きかけを検討し、実施する。  | 【入学試験前後の働きかけの強化】<br><br>■名簿・アドレス保有者に対して各入試の出願期間を考慮し、個別の情報提供、一般入試合格者に対する個別説明会等の検討を行ったが、実施には至らなかった。                                                                                                   | D                                                                                                                                                                    | ・具体案の検討を進め、実施につなげる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |      |                                    |        |       |      |        |       |    |      |    |    |    |    |    |    |     |      |    |    |    |    |    |    |    |   |                         |
| 38                 | ④ 養護教諭1種免許取得コース、社会人入試枠に関する広報活動を積極的に行い認知度を高めるとともに、高校・予備校等への働きかけを強化する。 | 【養護教諭1種免許取得コース等の広報強化】<br><br>■養護教諭1種免許状取得コースのフライヤーを作成、高校・予備校等に配布し、周知した。高校訪問時には看護職免許を有する養護教諭の強み等を説明し、本コースの認知度を高めるよう対応。また、オープンキャンパスの看護学科プログラムに保健師・養護教諭コースの説明時間を設けたところ、事後アンケートにおいて両コースの理解が促されたとの評価を得た。 | A                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |      |                                    |        |       |      |        |       |    |      |    |    |    |    |    |    |     |      |    |    |    |    |    |    |    |   |                         |
| 18                 | 高等学校との連携を強化し、高校生に対して本学への興味・関心、進学意欲を高める取組を推進する。                       | 39                                                                                                                                                                                                  | ① 入学者の出身高校の傾向を分析し、出願・入学者の多い高校、出願・入学者数は少なくても今後の増加が望まれる高校に対し、高校訪問を実施して高校教員との意見交換によりニーズ等を把握するほか、高校生に対する直接的な働きかけを強化する。特に、東区・北区の高校等に対する積極的なアプローチを行うとともに、地方高校に対する働きかけを強める。 | 【高校訪問の積極的な実施】<br><br>■入学者の出身校、出願者多数あるいは出願者増が見込まれる高校に対し、進路支援課職員が高校を訪問し、募集活動を行った。また、高校側の希望や入学実績に基づき指定校推薦枠を増やすなど、学生確保に向けた臨機応変な対応を行った。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | A    | ・引き続き実施する。                         |        |       |      |        |       |    |      |    |    |    |    |    |    |     |      |    |    |    |    |    |    |    |   |                         |

|    |                                                                          |    |                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |   |                                                                               |
|----|--------------------------------------------------------------------------|----|-------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|-------------------------------------------------------------------------------|
|    |                                                                          | 40 | ② 主たる学生供給先である高等学校との個別連携協定を進めるほか、複数高校と共同事業を実施するなど、新たな高大連携の取組を検討し、結果に応じて対応する。               | <b>【高校連携の拡大と共同事業の推進】</b><br><b>■</b> 授業連携でかかわりを有している高校は複数あるが、新たな展開には着手できなかった。現在、新規校（札幌丘珠高校）との対応を検討しており、2026 年度の実施に向け調整中。                                                                                                                                                                                                                                                                              | C | ・高大連携の推進のため、引き続き検討。                                                           |
| 19 | 看護師不足に対して国・日本看護協会等が進める社会人経験者を看護職者として育成する施策に基づき、社会人入試枠の設定を検討し、結果に即して対応する。 | 41 | ① 看護学科の社会人入試枠の出願者増を図るため、予備校等との連携を強化し、入学者確保につなげる。                                          | <b>【社会人入試の出願者増加を目指した施策】</b><br><b>■</b> 看護予備校担当者との接点を持ち対応にあたったが、予備校自体の対象者も減少しており、結果にはつながらなかった。また、出願に関する学内制度を検討したが、実施には至らなかった。                                                                                                                                                                                                                                                                         | B | ・看護職志望者の動向を鑑み、必要に応じて対応する。                                                     |
| 20 | 大学院教育の活性化のため、志願者の増加、定員の充足を図る。                                            | 42 | ① 研究科において、志願者増加のための取組を検討し、実施するとともに、教員・職員が協力して学内外に向けた情報提供活動を強化する。特に、在学生・卒業生に対するアプローチを強化する。 | <b>【志願者増加のための取組み】</b><br><b>■</b> 下記の取組みを実施した。<br>・2026 年度パンフレットを製作し、道内保健所 44、市内病院 198、市内福祉施設 139、道内・青森・岩手の大学 30 か所へ発送。<br>・個別相談会の実施を計画し、卒業生へはメールで周知、一般受験者には HP で案内するも相談者なし。<br>・オープンキャンパスを 2 回（8 月 2 日、11 月 29 日）予定するも参加なし。<br>・北海道教員養成研修受講者への広報を 8 月 26 日に実施。<br>・在学生（3・4 年生）への説明会は、9～11 月にそれぞれの専門分野の大学院学生の対面・動画による協力を得て実施した。1・2 年生については、看護学科では 2 月に実施、栄養学科は実施せず。<br>・大学祭に合わせて開催したホームカミングデーで広報を行った。 | B | ・広く受験生を募る方法に加えて、在学生や卒業生、看護教員などへの、個別アプローチを強化するために新たな大学院担当教員と共に、入学者確保に向けた活動を行う。 |
|    |                                                                          | 43 | ② 学部学生の大学院進学を支援するため、卒業生を対象とする学納金の減免措置について検討し、結論を出す。                                       | <b>【卒業生対象の減免措置の検討】</b><br><b>■</b> 卒業生を対象とする学納金の減免措置を講じている大学はほぼ無いことが判明。本学では既に学士課程からの直接進学者に対しては入学金減免制度を設けているため、他の措置を講じても志願者増につながる可能性は低いと考えられるため、導入は見送ることを決定した。                                                                                                                                                                                                                                         | B | ・学部学生、卒業生の進学状況を鑑み、必要に応じて検討する。                                                 |

| Ⅱ．研究活動の推進、研究水準の向上に関する事項 |                                                                                                    |    |                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |   |                                                                             |
|-------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|----|----------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|-----------------------------------------------------------------------------|
| 1．科学研究費等外部資金の獲得に向けた取組み  |                                                                                                    |    |                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |   |                                                                             |
| 21                      | 外部研究資金の情報を収集し提供するとともに、科研費申請にかかる研修会の開催や申請書レビューの実施等により若手研究者への支援を実施し、科学研究費等外部資金への応募（申請）数を増やして採択を促進する。 | 44 | ① 研究助成に関する民間企業等の公募情報の収集、公募案内の情報提供を効率的に行う方法を検討し、実施する。                       | <b>【研究支援体制の整備】</b><br><b>■</b> 研究助成に関する公募情報の収集を強化し、情報提供の効率化、可視化ができる体制整備について検討した。<br><b>■</b> 科研費申請・管理に係る業務の円滑な遂行を目指して、業務マニュアルの作成をはじめとする事務体制の整備を行うため、札幌医科大学（研究支援課及び学務課）の職員を招くなど、次のとおり研修会を実施した。<br>・科研費事務研修会<br>日時：9 月 4 日（木）14:30～<br>場所：札幌保健医療大学  4 号館「4201 講義室」<br>・科研費実務研修会<br>日時：11 月 28 日（金）15:00～<br>場所：札幌医科大学  基礎医学研究棟「会議室」        | B | ・2025 年 4 月に創設した科研費等研究支援制度により、2026 年度は 2 名が採択された。引き続き、科研費等申請サポート体制の充実強化を図る。 |
|                         |                                                                                                    | 45 | ② 科研費の応募（申請）数を増やすため、科研費申請サポートを行う体制を整備し、申請書のレビューを行うなど、申請予定者へのサポートを検討し、実施する。 | <b>【科研費申請サポート体制の構築】</b><br><b>■</b> 科研費の応募数を増やすため、研究計画書ブラッシュアップ制度等を整備するなど、「科研費申請サポート体制」の充実を図った。<br>＜科研費申請対策支援＞<br>科研費申請対策セミナー 1（F D S D 委員会主催）<br>日  時：7 月 10 日（木）15:10～16:30<br>方  法：対面<br>テーマ：科研費採択の可能性を高める申請書作成のコツとポイント<br>講  師：時野  隆至  教授（共通教育部門）<br>科研費申請対策セミナー 2<br>ねらい：科研費採択者の経験談からい、申請書作成のプロセスの具体を理解する<br>講  師：首藤  英里香  教授（看護学科） | A | ・同様の体制で科研費申請支援を実施。科研費応募数増に向けた取組みを検討。                                        |

|                   |                                                                                               |              |                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |      |                                         |      |            |        |      |             |      |        |      |           |      |           |      |              |      |          |      |           |      |   |                      |
|-------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|--------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------------|------|------------|--------|------|-------------|------|--------|------|-----------|------|-----------|------|--------------|------|----------|------|-----------|------|---|----------------------|
|                   |                                                                                               |              |                                                        | <div>岩部 万衣子 講師（栄養学科）</div> <div>方 法：オンデマンド配信</div> <div>科研費申請説明会</div> <div>講 師：玉川 法之 総務課長</div> <div>方 法：オンデマンド配信</div> <div>「研究計画調書」アドバイザーチェック</div> <div>アドバイザー：時野 隆至 教授</div> <div>チェック期間：8 月 18 日（月）～8 月 27 日（水）</div> <div>申請者：5 名</div> <div>採択された研究計画調書の閲覧</div> <div>ねらい：過去に採択された研究計画調書を学内公表し、申請希望者の参考とする。</div> <div>公表数：6 課題の研究計画調書</div> <div>閲覧期間：2025 年 8 月 4 日（月）～8 月 8 日（金）までの 5 日間</div> <div>【科研費申請・採択状況】</div> <div>新規申請者：8 名（このうちアドバイザーチェック利用者 5 名）</div> <div>新規採択者：2 名（このうちアドバイザーチェック利用者 2 名）</div> <div>新規申請者は例年並みであったが、アドバイザーチェックを受けた 5 名中 2 名が採択された。科研費申請サポート体制の効果と評価できる。</div>                                                                                    |      |                                         |      |            |        |      |             |      |        |      |           |      |           |      |              |      |          |      |           |      |   |                      |
| 2．研究活動の活性化に向けた取組み |                                                                                               |              |                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |      |                                         |      |            |        |      |             |      |        |      |           |      |           |      |              |      |          |      |           |      |   |                      |
| 22                | 地域の健康課題に寄与する研究や看護学・栄養学の融合を促す研究、科研費申請の準備的研究等に対する研究助成制度を新設するなど、学術奨励研究費助成のあり方を見直し、研究活動の活性化につなげる。 | 46           | ① 昨年度改正した新たな学術奨励研究助成制度に基づき、教員への教育研究等の支援を継続し、申請数増につなげる。 | <div>【学術奨励研究助成制度の運用及び整備】</div> <div>■学術奨励研究助成による研究支援を継続、申請増につなげるため、以下の取組みを実施。</div> <div>・募集要項や過去の採択事例の公開等、本制度の周知。</div> <div>・申請書テンプレートや記入例の整備・共有。申請内容の不備等についてチェック、軽微な修正支援が実施できる体制を整備。</div> <div>・申請から採択、さらに採択後のフォローまでを見据えた研究支援事務体制を整備。</div> <div>&lt;学術奨励研究助成制度の利用状況（助成件数）&gt;      合計 15（10）件</div> <table><tr><td>助成事業</td><td>助成数（前年度実績）</td><td>助成事業</td><td>助成数（前年度実績）</td></tr><tr><td>学術研究助成</td><td>6（4）</td><td>学術研究集会等開催助成</td><td>1（0）</td></tr><tr><td>奨励研究助成</td><td>4（3）</td><td>公開講座等開催助成</td><td>0（0）</td></tr><tr><td>科研費申請準備助成</td><td>0（1）</td><td>国際交流懇談会等開催助成</td><td>0（0）</td></tr><tr><td>短期海外研修助成</td><td>0（0）</td><td>社会連携活動等助成</td><td>4（2）</td></tr></table> | 助成事業 | 助成数（前年度実績）                              | 助成事業 | 助成数（前年度実績） | 学術研究助成 | 6（4） | 学術研究集会等開催助成 | 1（0） | 奨励研究助成 | 4（3） | 公開講座等開催助成 | 0（0） | 科研費申請準備助成 | 0（1） | 国際交流懇談会等開催助成 | 0（0） | 短期海外研修助成 | 0（0） | 社会連携活動等助成 | 4（2） | B | ・引き続き、申請増につなげる検討を行う。 |
| 助成事業              | 助成数（前年度実績）                                                                                    | 助成事業         | 助成数（前年度実績）                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |      |                                         |      |            |        |      |             |      |        |      |           |      |           |      |              |      |          |      |           |      |   |                      |
| 学術研究助成            | 6（4）                                                                                          | 学術研究集会等開催助成  | 1（0）                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |      |                                         |      |            |        |      |             |      |        |      |           |      |           |      |              |      |          |      |           |      |   |                      |
| 奨励研究助成            | 4（3）                                                                                          | 公開講座等開催助成    | 0（0）                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |      |                                         |      |            |        |      |             |      |        |      |           |      |           |      |              |      |          |      |           |      |   |                      |
| 科研費申請準備助成         | 0（1）                                                                                          | 国際交流懇談会等開催助成 | 0（0）                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |      |                                         |      |            |        |      |             |      |        |      |           |      |           |      |              |      |          |      |           |      |   |                      |
| 短期海外研修助成          | 0（0）                                                                                          | 社会連携活動等助成    | 4（2）                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |      |                                         |      |            |        |      |             |      |        |      |           |      |           |      |              |      |          |      |           |      |   |                      |
| 23                | 現行の個人研究費の配分額を見直し、教育研究等諸活動の実績や研究成果に応じた研究費の配分を検討し、実施する。                                         | 47           | ② 研究活動の活性化に向けて、個人研究費の配分額・配分方法の見直しを行い、結論を出す。            | <div>【個人研究費の配分額・方法の検討】</div> <div>■学生数減少による学納金収入の減額等による収支状況等を踏まえ、学長判断により個人研究費を減額（30%）。研究活動の活性化へ向け、教員業績評価を配分額に反映させる方向で検討を実施したが、結論には至らなかった。</div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | C    | ・教員業績評価と研究費配分を連結させるため、年度内に評価制度を整える。     |      |            |        |      |             |      |        |      |           |      |           |      |              |      |          |      |           |      |   |                      |
| 24                | 教員の研究活動に関する社会的認知を促すため、研究成果をホームページや広報誌等を通じて積極的に発信する。                                           | 48           | ③ ホームページや広報誌等を活用して研究成果を学外に発信する方法を検討し、実施する。             | <div>【ホームページを活用した研究成果の発信】</div> <div>■広報委員会において基本方針を策定し、各種情報の発信方法を教職員への周知を始めることができたが、この分野の着手には至らなかった。</div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | D    | ・研究成果の発信方法を検討し、結果に応じて対応。                |      |            |        |      |             |      |        |      |           |      |           |      |              |      |          |      |           |      |   |                      |
| 25                | 教員の海外留学、研修を支援するための制度創設を検討し、結果に応じて対応する。                                                        | 49           | ① 昨年度改正した新たな学術奨励研究費助成制度に基づき、教員の海外研修支援を継続する。            | <div>【学術奨励研究助成制度に基づく海外研修支援】</div> <div>■学術奨励研究助成制度において海外研修等の助成事業を設けているが、2025 年度の申請者はゼロであった。</div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | B    | ・2025 年度の申請はなく、助成に至っていないが、引き続き同制度を運用する。 |      |            |        |      |             |      |        |      |           |      |           |      |              |      |          |      |           |      |   |                      |

| 3. 研究倫理の確立に向けた取組（追加）            |                                                                                                    |    |                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                             |
|---------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| 26                              | （追加）研究倫理や研究活動の不正防止に関する学内体制を整備するとともに、教員・学生の研究倫理の遵守を図る取組を推進する。                                       | 50 | ① 研究倫理審査に関しては、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」等に基づき改定した規程等を踏まえて実施するとともに、申請者の研究倫理に関する認識・意識の向上につながるように対応する。                      | 【研究倫理の確立へ向けた取組み】<br>■研究倫理の確立に向けて、以下の取組みを実施した。<br>・研究倫理委員会規程の見直し及び改正の実施<br>・研究倫理要項の見直し及び改正の実施<br>・研究倫理審査にあたる教職員は事前に日本学術振興会研究倫理 e ラーニングコース及びインテグリティ研修を受講し、研究倫理に関する知識を再確認の上、審査を実施している<br>・全教員及び関係している職員を対象に年 1 回の研究倫理セミナーのほか、日本学術振興会研究倫理 e ラーニングコースの受講を義務付けており、受講率 100％であった。<br>・今年度中に、研究倫理に関するオンデマンドを作成し、2026 年度 4 月より研究倫理申請者が不明な点を確認できるように配信予定で現在準備中である。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | A<br><br>・引き続き研究倫理に関する教育の継続及び研究倫理審査を的確に行えるように委員の知識を再確認していく。 |
|                                 |                                                                                                    | 51 | ② 研究倫理に関する教員・学生の理解を促すための研修会、授業のあり方等について、F D S D 委員会と連携して開催する。                                                             | 【研究倫理に関する研修等の取組み】<br>■研究倫理の研修会等について以下のとおり実施し、F D S D 委員会とは情報を共有。<br>・研究倫理に関する教員・院生の理解を促すために研修会の開催を実施および日本学術振興会研究倫理 e ラーニングコース受講を推奨した。<br><br>・栄養学科学生には、卒業研究の実施前に研究倫理に関して説明。<br><br>・看護学科学生には、看護課題研究科目に教育内容を組み込んでいる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | B<br><br>・F D S D 委員会との連携を強化する。                             |
| Ⅲ. 地域貢献・社会連携の推進に関する事項           |                                                                                                    |    |                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                             |
| 1. 地域貢献・社会連携活動の一元的運営体制の構築に向けた取組 |                                                                                                    |    |                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                             |
| 27                              | 大学・学科においてさまざまな形で実施されている地域貢献・社会連携活動を集約し、一元的な運営体制を構築することで大学の実績を可視化するとともに、地域貢献・社会連携活動を推進するための取組を展開する。 | 52 | ① 地域に根差し、地域から必要とされる大学を目指し、中沼・丘珠地区を中心とする地域における産・官・学の連携を推進するため、社会連携・地域貢献活動を企画・調整・実施する「コミュニティヘルス推進センター（仮称）」を設置し、管理運営体制を構築する。 | 【コミュニティヘルス推進センター設置の検討】<br>■中沼・丘珠地区を中心とする地域における連携推進のため、コミュニティヘルス推進センター（仮称）の設置案を検討し、企画運営会議において決定したが、事務局体制が整わなかったことから設置は延期することとした。<br>【社会連携・地域貢献活動の推進】<br>■モエレ町内会（中沼地区含む）及び丘珠地区まちづくりセンターと定期的な意見交換の場を設け、地域のニーズや地域住民が大学に期待している内容を把握し、ニーズに沿った活動内容を検討・実施した。<br>■昨年度より開催されている『丘珠空港プロジェクト』において、丘珠空港おもてなし隊の活動を継続中。<br>8 月に 2 日間開催。160 名程度が参加し好評であった。次年度も継続予定。<br>・地域貢献・社会連携方針に掲げられている㊦生涯学習支援㊦健康増進支援の活動の 1 つ目として、2025 年度は公開講座を 6 月に実施した。受講者数約 30 名。体験型であることからおおむね好評であった。<br>テーマ：「健康をつくる正しい食べ方とは～自分の食べ方をチェックしてみましょう」講師：百々瀬教授（栄養学科）<br>日 時：6 月 7 日土曜日 10 時～12 時（本学 4308 多目的室）<br>座 長：河崎教授（看護学科） 司 会：小野准教授（看護学科）<br>・10 月 19 日につどーむで開催したひがしく健康・スポーツまつりに、学生及び教員が協働して参加した。内容は、本学の看護学科・栄養学科の合同科目である地域連携ケア論で学生が地域の特性から考える健康課題についてのテーマとして企画した内容のうち 5 つのグループ企画を実施した。参加者約 200 名。<br>■リカレント教育の一環として、下記の取組みを実施した。<br>・栄養教育セミナーの実施（川口教授）、参加者 30 名。<br>・N C P R（B コース）の開催（河崎教授）、学部生 6 名が参加。受講者全員が資格認定され試験に合格した。 | B<br><br>・事務局体制の整備状況に応じて、センター設置を再検討する。                      |
|                                 |                                                                                                    | 53 | ② 豊生会、レバンガ北海道等、連携協定締結先との連携活動のあり方を検証・評価し、連携のあり方を検討するとともに協定内容の見直しを行い、結論を出す。                                                 | 【豊生会、レバンガ北海道等との連携協定締結内容の見直し】<br>■連携協定のあり方を検討するため、協定に基づく活動実績を調査したが、見直しには至らなかった。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | D<br><br>・豊生会、レバンガ北海道等との連携協定締結内容の見直しを行う。                    |

| 2. 教育研究資源、及び研究成果を地域課題の解決に向けて活用する取組み |                                                                            |    |                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                        |   |                                                                       |
|-------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|-----------------------------------------------------------------------|
| 28                                  | 産学官連携活動の推進により教育研究の活性化を図るとともに、本学が有する資源を社会的に還元する取組を促進する。                     | 54 | ① 「コミュニティヘルス推進センター」において、中沼・丘珠地区の地域住民との交流を促進し地域の抱える健康課題の改善を図ることで、この地区の健康づくりの拠点となるため、産官学連携によるコンソーシアムの設立を検討し、結果に即して対応する。 | *実施計画 52 参照。                                                                                                                                                                                                                                           | B |                                                                       |
|                                     |                                                                            | 55 | ② 本学の所在地域における学生による正課内外の社会活動を推進し教育学習活動と地域貢献活動の連結を図る取組を検討し、結果に応じて対応する。                                                  | 【社会貢献活動と教育活動の連結に向けた検討】<br>■2027 年度改正予定の新カリキュラムにおいて、社会貢献活動と教育活動を連結させる地域志向教育を検討中。栄養学科閉鎖と新学科構想により 11 月以降検討を中断、2028 年度改正に向けて再会予定。                                                                                                                          | B | ・正課内外における地域志向教育の新カリキュラムへの導入のため、カリキュラム委員会において検討を再開。                    |
| 3. 地域の人々の生涯学習を支援する取組み               |                                                                            |    |                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                        |   |                                                                       |
| 29                                  | 地域住民に対する図書館の開放や図書資源を活用した生涯学習支援に関する取組を検討し、結果に応じて対応する。                       | 56 | ① 図書館の地域住民への開放可能性について諸条件を含めて検討し、結果に応じて対応する。                                                                           | 【学外者への図書館開放】<br>■大学祭に連動して、「ふきのとう文庫」を利用したオープンライブラリを開催した。また、ブックリサイクルの対象となる本の中から、希望する本を譲渡した。<br>■卒業生や医療従事者を中心に、図書館利用の希望があれば応じた。今年度の利用者数は、今年度の学外利用者数は 374 名である。                                                                                            | A | ・オープンライブラリの企画立案。<br>・学外者の図書館利用の希望に応じる。                                |
| 30                                  | 本学を中心に地域の保育園・小学校・中学校・高等学校等との連携を推進するとともに、地域で子どもを育てる「教育連携構想」を検討し、結果に応じて対応する。 | 57 | ① 本学の所在地域（中沼・丘珠地区）の保育園・小学校・中学校・高等学校等との連携協働活動の可能性を探り、協定締結に向けた取組を行う。                                                    | 【中沼・丘珠地区における教育連携構想の検討】<br>■中沼・丘珠地区の小学校・中学校・高等学校との教育連携を検討するため、7 月に、丘珠小学校、中沼小学校、丘珠中学校、丘珠高校を訪問し、各校長に対して趣旨を説明、概ね賛同を得る。3 月 19 日（木）に「丘珠・中沼地区学校連携会議（学校連携のあり方を考える会議）」を本学で開催し、今後の取組みについて意見交換を行った。                                                               | B | ・丘珠・中沼地区の「学びの共同体」構築に向けた学内体制の整備、協議会設置等の準備を進め、実施可能な範囲・程度において何らかの取組みを実施。 |
| 4. 国際交流の推進に向けた取組み                   |                                                                            |    |                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                        |   |                                                                       |
| 31                                  | 2023 年度のモンゴル国医療従事者の来学を契機とし、モンゴル国の保健医療に貢献するため交流を深める。                        | 58 | ① モンゴル国保健医療従事者等との関係促進を目指して、今後の交流内容・方法を検討し、実施可能な取組を行う。                                                                 | 【国際交流の今後の取組み・方法の検討】<br>■JICA 海外協力隊員(モンゴル派遣)の講師（理学療法士）を招いての研修会及び、国際交流委員の 1 人でもある教員によるモンゴルでの活動報告会を実施した。                                                                                                                                                  | A | ・次年度以降も、国際交流につながる内容と方法を検討し、計画的に実施する。                                  |
| 32                                  | 多様性に対する視野を広げて国際性を高める取組を行うとともに、学生の海外研修を推進する。                                | 59 | ① 複数の海外研修コースを提供するため、関係機関・企業等からの情報収集を行うとともに連携体制を構築するための準備を進める。加えて、カリキュラム委員会において海外研修の単位化に向けた検討を行う。                      | 【学生の国際性を高めるための検討】<br>■国際交流委員会用の学内掲示板及び Teams を活用し、複数（JICA、旅行会社、札幌国際プラザ等）からの海外研修コース等の情報を収集し発信した。その中の 1 つである研修コースに参加した学生による報告会を実施。<br>■海外研修の単位化に関しては、現在の旅行会社企画による研修の参加を特別総合科目の単位に組み入れることを検討したが、今年度及び来年度からの実施には至らず、改めて新カリキュラム策定の際にカリキュラム委員会において検討することとした。 | B | ・次年度以降も、学生の国際性を高める情報収集と提供に努めていく。                                      |
| 5. 大学間連携の推進に向けた取組み                  |                                                                            |    |                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                        |   |                                                                       |
| 33                                  | 教育研究の質の向上を目指し、大学相互の教育研究資源を共有・活用する連携推進に向けた検討を行い、結果に応じて対応する。                 | 60 | ① 学生、教職員にとっての意義を明確にしたうえで、大学間連携の可能性を探り、結果に応じて対応する。                                                                     | —                                                                                                                                                                                                                                                      | E | ・大学間連携の可能性を探るため情報収集を実施する。                                             |

| IV. 管理運営の改善、及び効率化に関する事項           |                                                                                            |    |                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                         |
|-----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|----|-------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 教学マネジメントの確立、内部質保証体制の充実化に向けた取組み |                                                                                            |    |                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                         |
| 34                                | 大学の諸活動に対する質保証を推進するため、内部質保証システムの見直しを行い、本学の特性に即した新たな内部質保証システムを構築することにより、教学マネジメントの機能化・実質化を図る。 | 61 | ① 内部質保証の方針・手続について検証し、本学の規模や特性に即したシステムとなるよう必要に応じて改善を図る。                                    | <b>【内部質保証方針の検証、必要に応じた改善】</b><br><br>■大学認証評価において、本学の内部質保証体制は機能化・実質化が図られているとの評価を得ることができたことより、方針・手続の検証はなされたものと判断し、当面は現行の方針・手続を継続することとした。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | A<br><br>・「内部質保証の方針」に基づき、教育等諸活動の向上のため内部質保証の一層の推進に取り組む。                                  |
| 35                                | 内部質保証の質の向上をめざし、大学の諸活動に関するさまざまな IR データを効率的・効果的に収集・分析し、活用する体制を整備する。                          | 62 | ① I R 推進室において、教学に関わるデータの収集・分析・蓄積を進めるとともに、管理運営体制の充実を図る。                                    | <b>【教学 IR データの収集及び分析・解析へ向けた取組み】</b><br><br>■教学に関わるデータ収集・分析・蓄積を行い、教学 IR ファクトブックを完成させた。これにより学内外に公開できる体制が整った。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | A<br><br>・学科及び事務局から収集するデータのフォーマット等を明確化し、今後の解析をスムーズにする。<br>・IR 推進室へのデータ解析等、ガイドラインを完成させる。 |
|                                   |                                                                                            | 63 | ② I R 推進室において、教学に関わるデータの収集・分析・蓄積を行い学内で共有するとともに、学外に向けたファクトブックの作成とホームページの活用を検討し、結果に即して対応する。 | <b>【教学 IR データの収集・分析・蓄積の取組み】</b><br><br>■教学に関わるデータ収集・分析・蓄積を行い、教学 IR ファクトブックを完成させた。これにより学内外に公開できる体制が整った。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | A<br><br>・教学 IR ファクトブックの内容の再検討、改善案の検討を行う。                                               |
|                                   |                                                                                            | 64 | ③ I R 推進室において、I R に基づく効果的な教育活動の推進のため、I R に関する教職員の理解を促すための活動を計画し、F D S D 委員会と連携して実施する。     | <b>【IR に関する学内周知の取組み】</b><br><br>■F D S D 委員会と連携し、F D S D 研修において主な解析結果を示すことで教学 I R の重要性を周知・啓発した。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | A<br><br>・F S ミーティングにおいて、教学 IR ファクトブックの内容を学内周知し、共有を図る。                                  |
| 36                                | 教学マネジメント、内部質保証に関する取組に学生の参画を促し、学生の声を改善・改革に反映させる体制を構築する。                                     | 65 | ① 教学マネジメント、内部質保証に対する学生の関与を深めるため、委員会への出席等を検討して大学運営への学生参加を拡大し、意見を反映させる体制づくりを行う。             | <b>【学生との意見交換会の実施】</b><br><br>2023 年に学生との意見交換会を試行し、以降教務委員会・学生委員会が中心となり、年 1 回開催。<br><br>目 的：本学の授業や学習に関する事項（学事暦等）について、直接学生代表から意見や要望を聞き、今後の教育の質の向上と学生生活の充実を図る。<br><br>日 時：2025 年 12 月 9 日（火）16 時 50 分～18 時 20 分<br><br>場 所：3301 号室<br><br>出席者：木津教務部長、近藤看護学科長、坂本栄養学科長、前多准教授（教務委員）、渡辺准教授（教務委員）<br><br>戸尾学務課長<br><br>学生代表：看護学科 1 年次生 2 名、2 年次生 2 名、3 年次生 2 名、4 年次生 2 名<br>栄養学科 1 年次生 2 名、2 年次生 2 名、3 年次生 2 名、4 年次生 2 名<br><br>学生からの主な意見：<br><br>・時間割の科目配置について：空きコマを減らして授業を詰める等<br><br>・学生の考える「学びやすい授業」とは：①教科書の電子化、②全授業でのレジュメ配布（特にカラーや書き込み式）等<br><br>・学生への連絡ツールに関する意見と対応：連絡ツールを統一等<br><br>対 応：<br><br>・学生から提示された意見に関し、大学としての回答をフィードバックするとともに、要改善事項については関係組織において取り組むこととした。 | A<br><br>・2026 年度実施に向けて、開催時期・学生代表選出・代表学生への説明など計画的に進める。<br><br>・学生への効果的なフィードバック方法について検討。 |

22

|                   |                                                                                                          |    |                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |   |                                                 |
|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|-------------------------------------------------|
|                   |                                                                                                          | 72 | ④ I C T、A I等の教育活用の推進を図るため、これらを活用した教育方法に関する研修会等を企画・実施し、教員の知識・スキルの向上を図る。                                  | <p>【2025 年度 FD 研修会の企画・実施】</p> <p>■ I C T、A I等の教育活用に関する以下の研修会を実施した。</p> <p>&lt;第 4 回 FD 研修会&gt;</p> <p>日 時 2026 年 3 月 17 日(火)13:30～16:40</p> <p>内 容 第 1 部：情報化推進委員会</p> <p>・ アンケート結果の共有</p> <p>・ Forms 自動化の実践発表</p> <p>・ 生成 A I 研修</p> <p>第 2 部：小学校教諭・高校教諭の 2 名の特別講師による ICT を活用した授業実践等講演</p> <p>講師 1：発寒東小学校 教務主任 尾形 朝良氏（講演 40 分・質疑応答 10 分程度）</p> <p>「小学校における 1 人 1 台端末の活用と学校 D X」</p> <p>講師 2：札幌新陽高校 情報主任 尻江 重幸氏（講演 40 分・質疑応答 10 分程度）</p> <p>「高校生における I C Tスキルと A I 活用の現状と課題」</p> <p>場 所：4308 講義室（4 号館 3 階）</p> <p>対 象：本学教員</p> | A | ・ I C T、A I の変化は目まぐるしいため、教員はその変化に対応できるよう研修会を開催。 |
| 4．危機管理体制の強化に関する事項 |                                                                                                          |    |                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |   |                                                 |
| 40                | さまざまな危機に迅速かつ的確に対応するため、現行の危機管理マニュアルを改訂するとともに、危機管理体制の見直しを行い、より効率的な体制に整備する。                                 | 73 | ① 危機に対する迅速・的確な対応を行うため、危機管理体制を再整備するとともに、危機管理マニュアルの見直しを行い、改訂する。                                           | —                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | E | ・ 2026 年度中に危機管理マニュアルの見直しを行い、改訂する。               |
|                   |                                                                                                          | 74 | ② 災害発生時のアクションカードの作成、防災グッズ等の備蓄・整備、安否確認方法等の検討など、防災・災害に関わり大学が備えるべき事項を検討し、優先度を考慮して対応する。                     | —                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | E | ・ 2026 年度中に安否確認システムを導入するほか、防災・災害に備えた学内整備を進める。   |
| 5．教員組織の充実化に関する事項  |                                                                                                          |    |                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |   |                                                 |
| 41                | 大学の将来展望や変化する社会環境等に対応するため、将来構想との関連から各学科・研究科の教員組織と教員配置を検討するとともに、教員の採用・昇任、部局長の選任に係る大学方針・手続等を検証し、必要に応じて改善する。 | 75 | ① 大学の将来構想にかかる見直しのもとに、両学科の教員組織、教員配置の見直しを行い、教育研究上の必要に応じて対応する。                                             | <p>【教員組織・配置の見直し】</p> <p>■養護教諭 1 種免許状取得コース設置による教職課程履修者増に対応するとともに教職課程専任教員の退職を見すえ、看護学科教員定数の枠内で教職専任教員 1 名を増員。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | A | ・大学の将来構想を踏まえ、その時々状況に応じて教員組織の見直しを図る。             |
|                   |                                                                                                          | 76 | ② 教養・一般教育、学修支援、教職課程等の共通教育の充実、及び I R等の全学共通課題への効率的な対応のため、基礎教育科目及び教職担当教員を構成員とする共通教育部門を設置し、教育研究・大学運営の充実を図る。 | <p>【共通教育部門設置と I R 推進室との連携】</p> <p>■共通教育部門とプレイスメントテストの結果を共有し、解析することから、本学新入生の基礎学力の弱点を把握し、リメディアル教育の資料とする。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | A | ・共通教育部門と I R 推進室との連携を深め、教学に必要なデータ、解析結果を共有する。    |
| 42                | 教員のモチベーション向上を図るため、個々の業績を適正に把握するとともに、活用策を検討するため、業績評価制度の見直しを行う。                                            | 77 | ① 教員業績評価試案に基づき実施した試行評価の結果を検証・評価し、必要な場合は評価基準等の改善を図って本実施する。                                               | <p>【教員業績評価の導入準備】</p> <p>■人事等検討委員会において教員業績（活動状況）評価案を取りまとめたが、学内事情により評価対象全員を対象とする試行調査に至らなかった。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | C | ・ 2026 年度中に試行を終了し、本実施に向けて準備する。                  |

| 6. 人権侵害のない大学環境の構築に向けた取組み    |                                                                                                           |    |                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |   |                                                                       |                                |                               |
|-----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|-----------------------------------------------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|
| 43                          | ハラスメントによる学修環境・労働環境の悪化は大学の諸活動に影響するのみならず、今後の発展を害する重大なリスクであることを踏まえ、ハラスメントの撲滅を目指すとともに発生した事案に対しては迅速かつ適切に対応する。  | 78 | ① ハラスメント実態調査を実施して学内におけるハラスメントの有無等を把握するとともに、結果に応じて必要な改善を図る。                           | <p>【ハラスメント防止等に関わる取組みの実施】</p> <p>■隔年実施のハラスメント実態調査により問題・課題を把握するとともに、ハラスメント撲滅のための対策について委員会内で検討した。今後もガイドラインに基づく対策を継続するとともに、教職員の要望を踏まえた研修会の実施とハラスメント相談等に関する周知方法の工夫を図ることとした。2025 年度の委員活動は以下のとおり。</p> <p><b>1. ハラスメント実態調査の実施、結果分析、公表</b></p> <p>対 象：学生（学部・大学院）、教職員</p> <p>方 法：WEB 調査</p> <p>実施期間：2025 年 9～11 月</p> <p>回 答 率：学生 78.6％、教職員 58.1％</p> <p>結果概要：ハラスメントを受けた経験者は学生・教職員とも若干名存在。学生は実習中の教育指導、教職員は過重な業務量や無視等に関するもので、いずれも教員から受けたとの回答。</p> <p>：ハラスメント相談や相談員を知らないとする者が若干名存在。</p> <p>：2023 年度の実施結果に比較し、ハラスメントを受けた経験のある者は減少。</p> <p><b>2. ハラスメント事案の集約・学内周知</b></p> <p>相談件数：学内 1 件、学外なし</p> <p>相 談 者：学生</p> <p>相談内容：教室外での不要な身体接触、ハラスメント的言動等について</p> <p>相談結果：当該教員に対して学科長より厳重注意</p> <p>上記に関し、教授会での報告後、学内に周知した。</p> <p><b>3. ハラスメント防止に係る啓発活動等</b></p> <p>1）啓発用フライヤーの作成</p> <p>2）ハラスメント防止体制にかかる学生対象ガイダンスの実施</p> <p>3）ハラスメント研修会（教職員対象）</p> <p>テーマ：大学における多様な性の理解と対応ーハラスメント防止とトランスジェンダー支援の方法ー</p> <p>講 師：真田 陽 氏（にじいろほっかいどう事務局事務局長）</p> <p>開催日時：2024 年 10 月 23 日（木）16:50～17:50</p> <p>参加者数：教職員 73 名中 64 名（87.7％）</p> <p>開催結果：実施後アンケートでは、ほとんどの参加者が研修内容に対して肯定的に評価しており、LGBT-Q に対する知識の深まりと多様性を尊重する環境づくりの必要性について述べられており、高い研修効果が認められた。</p> | A | ・引き続き「ハラスメント防止にかかるガイドライン」等に基づきハラスメント防止に努める。                           | ・LGBT 等対応ガイドラインをより具体的な内容に改訂する。 | ・札幌市 LGBT フレンドリーシップの星 3 つを得る。 |
| 7. キャンパス環境の改善、魅力化・緑化に向けた取組み |                                                                                                           |    |                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |   |                                                                       |                                |                               |
| 44                          | キャンパス（大学施設・設備、構内環境）の魅力化は学生募集に影響するのみならず、地域社会への貢献という意味からも重要な視点であることを踏まえ、キャンパス環境の改善、魅力化に向けた検討を行い、結果に応じて対応する。 | 79 | ① 大学施設・設備、構内の環境改善を行い、学生・卒業生、地域住民、高校生にとって、魅力あるキャンパスとなるよう学生の意見も踏まえて検討し、キャンパスの魅力化を推進する。 | <p>【環境改善にかかわる冷房設備の整備】</p> <p>■キャンパス環境改善の最優先事項である 4 号館の冷房設備に関し、次年度文科省に補助金を申請、計画的に整備を進めることとする。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | D | ・必要に応じてキャンパス環境の改善に取り組む。                                               |                                |                               |
| 8. 情報ネットワーク環境等の充実にに向けた取組    |                                                                                                           |    |                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |   |                                                                       |                                |                               |
| 45                          | （追加）ＩＣＴやＡＩ等に関する教育の推進、及び大学業務のＤＸ化を推進して業務の効率化を促すため、情報ネットワーク環境等の充実を図る。                                        | 80 | ① 情報ネットワーク環境の充実・整備、情報倫理の推進、ＩＣＴやＡＩ活用に関わる教職員への啓発等を業務とする組織の新設を検討し、結果に即して対応する。           | <p>【情報ネットワーク環境の整備】</p> <p>■情報ネットワーク環境の充実・整備、ＩＣＴやＡＩ活用にかかわる啓発等に取り組む情報化推進委員会を 12 月に設置し、活動を開始した。</p> <p>■ＩＣＴやＡＩ活用に関わる、教職員への啓発等を業務とする組織の新設準備を進め、結果に即して対応する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | A | ・情報化推進委員会を中心に学内の情報ネットワーク環境の充実・改善、ＩＣＴやＡＩを活用した教育方法に関する啓発・普及、業務改善等に取り組む。 |                                |                               |

| V. 財務関係の改善に関する事項            |                                                                                                    |    |                                                                                 |                                                                                                                                                                 |                                                                                            |
|-----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 収入の確保、予算の適切な執行に向けた取組み    |                                                                                                    |    |                                                                                 |                                                                                                                                                                 |                                                                                            |
| 46                          | 学部・大学院の入学定員の確保や志願者の増加に努め、学生納付金の収入確保を図るとともに、私立大学等経常費補助金の交付額の増額に向けた取組を行う。                            | 81 | ① 補助金交付に関する本学の課題・問題を踏まえ、交付額増額に向けた具体的な検討を行い、対策を講じる。                              | <b>【補助金獲得推進に向けた取組み】</b><br>■企画運営会議において「教育の質に係る客観的指標」の要件充足に取り組む委員会等に指示を出し、改善・向上に取り組んだ結果、点数アップにつながった。<br><br>2023 年度：17 点<br><br>2024 年度：25 点<br><br>2025 年度：32 点 | B<br><br><br><br><br><br><br>・経常費補助金交付額の増額に向けた取組みを継続的に実施する。                                |
| 47                          | 支出経費の必要性や費用対効果の検証を行い、大学運営経費の適正な執行に取り組む。                                                            | 82 | ① 各学科・研究科、各種委員会等を対象に、必要に応じて、予算要求・執行に関するヒアリングを実施し、各種事業・諸活動の目的や効果を確認した上で、予算を措置する。 | <b>【予算要求・執行等に関するヒアリングの実施】</b><br>■各学科・研究科、各部署から提出された予算要求について、精査・確認の必要に応じてヒアリングを実施し、適正な予算要求となるよう対応した。                                                            | B<br><br><br><br><br><br><br>・予算要求・執行に関し、必要に応じて関係組織等からのヒアリングを実施し、適正な執行に取り組む。               |
| VI. 自己点検・評価・改善、及び情報公開に関する事項 |                                                                                                    |    |                                                                                 |                                                                                                                                                                 |                                                                                            |
| 1. 機関別評価、看護学教育評価の受審に向けた取組み  |                                                                                                    |    |                                                                                 |                                                                                                                                                                 |                                                                                            |
| 48                          | 2025 年度の大学機関別評価、2026 年度の看護学教育評価の受審に向けた体制を整備し計画的に対応するとともに、それぞれの評価基準に照らした現状把握を行い、必要に応じて改善に取り組む。      | 83 | ① 2024 年度の自己点検・評価によって明らかになった課題・問題を改善・解決するための取組を継続し、実地調査までに対応を完了する。              | <b>【大学認証評価に向けた改善・向上の取組み】</b><br>■大学院研究科の教員組織編制方針が未整備であったことから、実地調査までに方針案を作成し、研究科委員会で審議・決定した。<br><br>基準 6（教員・教員組織）の概評及び総評で策定の必要性が示されたものの、提言事項としての指摘は無かった。         | A<br><br><br><br><br><br><br>                                                              |
|                             |                                                                                                    | 84 | ② 看護学科においては、看護学教育評価の受審準備体制を構築して点検・評価を進めるとともに、基準を充たしていない事項の改善に取り組む。              | <b>【看護学教育評価受審に係る自己点検・評価の実施、自己点検・評価報告書等の作成】</b><br>■基準毎の WG において評価項目毎に自己点検・評価を実施し、学科教授会で検証を進めてきた。基準未充足事項については、実地調査までに改善策を検討する。                                   | B<br><br><br><br><br><br><br>・3 月末に自己点検・評価報告書を提出。基準の未充足事項の改善に取り組む。<br><br>・実地調査に向けた準備を進める。 |
| 2. 情報公開、広報の充実化に向けた取組み       |                                                                                                    |    |                                                                                 |                                                                                                                                                                 |                                                                                            |
| 49                          | 教育・研究・社会貢献・運営に関する情報をタイムリーに公開するとともに、大学ホームページを充実化して、情報公開・検索の利便性を図る。また、情報発信力を高めるための効果的な広報活動を検討し、実施する。 | 85 | ① 大学の諸活動に関する情報を効果的に発信するため、広報方針の策定と広報計画の立案に取組み、広報対象者に適した媒体による効果的な広報活動を展開する。      | <b>【広報基本方針・広報戦略・報道発表マニュアル策定】</b><br>■以下の取組みを実施。<br>2025.6 大学広報基本方針策定<br>2025.9 大学広報戦略策定<br>2025.10 報道発表マニュアル策定                                                  | A<br><br><br><br><br><br><br>・基本方針・戦略・リリースマニュアルの徹底を図るとともに、教職員一人一人の広報意識を醸成する。               |
|                             |                                                                                                    | 86 | ② 広報活動の充実化のため、学生・教員が広報活動に関与する体制を検討し、実施する。                                       | <b>【広報活動体制の確立】</b><br>■策定した広報基本方針及び広報戦略について、全学に周知するとともに F S ミーティングにおいて教職員に説明し、広報活動に対する意識啓発を図った。<br>■学生の広報活動関与体制については検討未了。                                       | B<br><br><br><br><br><br><br>・F S ミーティングで報道発表マニュアルを説明。<br>・学生の広報活動関与体制について検討する。            |
|                             |                                                                                                    | 87 | ③ 大学情報の効果的かつ迅速な発信のため、ホームページの管理運営体制、ソーシャルメディアガイドライン等の整備を行い、それらに基づいて運用する。         | <b>【ホームページ管理運営体制の整備】</b><br>■ホームページ管理運営及び公式ソーシャルメディア運用方針について作成検討中。<br>■教職員・学生対象のソーシャルメディアガイドラインについては 2025 年 11 月設置の「情報化推進委員会」に移管。                               | C<br><br><br><br><br><br><br>・ホームページ管理運営方針の策定及び方針に沿った実施                                    |
| 50                          | 個人情報保護に関する方針の明確化、ガイドラインの策定を行い、法令及び情報倫理にかかわるコンプライアンス体制を整備し、それに則って対応する。                              | 88 | ① 個人情報保護に関する方針、及びガイドラインを策定し、コンプライアンスに基づいて運用する。                                  | <b>【個人情報保護に関するガイドライン等の作成】</b><br>■ガイドライン等の策定部署として本委員会が適切かどうかの検討が必要であるため、今年度は新たな活動はしなかった。                                                                        | E<br><br><br><br><br><br><br>・情報化推進委員会において対応する。                                            |

| 3. 機関リポジトリの構築と運用に向けた取組み       |                                                                 |    |                                                                     |                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                         |
|-------------------------------|-----------------------------------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 51                            | 紀要に掲載された研究論文、及び学位論文等への広いアクセスを可能とするため、機関リポジトリの構築を検討し、結果に応じて対応する。 | 89 | ① 機関リポジトリの運用を開始し、必要に応じて体制の改善を図る。                                    | <b>【機関リポジトリの運用】</b><br>■本学の紀要に掲載されている論文に関して、全てのバックナンバーの閲覧が可能となった。<br>■科研費等、公的資金による研究成果（学術論文、研究データ等）の即時オープンアクセスに対応するため、研究データポリシー等を策定した。                                             | A<br><br>・紀要掲載論文以外の学術論文、研究データ等を登録するための整備を行う。<br>・リポジトリの整備（アイテムタイプの作成、登録項目、著者 DB の整備等）。<br>・メタデータ入力項目等の整備・マニュアル化。<br>・上記作業を円滑に進めるために情報収集に努め、体制を整えたうえで、紀要論文以外でリポジトリに登録する学術情報の提供を教員に呼び掛ける。 |
| VII. その他                      |                                                                 |    |                                                                     |                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                         |
| 1. 大学農場の効率的管理、及び農場活用の促進に向けた取組 |                                                                 |    |                                                                     |                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                         |
| 52                            | 本学の特徴の1つである大学農場の資源としての活用を推進するため、農場管理の機能化を検討し、結果に応じて対応する。        | 90 | 大学農場の位置づけ、管理運営方針等を明確化するとともに、今後の農場活用の可能性等について検討し、結果に応じて対応する。         | <b>【大学農場の活用の促進の取組み】</b><br>■大学農場管理運営規程等に基づき、農場長を中心に管理運営の安定化を図った。                                                                                                                   | A<br><br>・2025 年 7 月に策定した大学農場管理運営計画に基づき、引き続き、効果的な農場活用を進める。                                                                                                                              |
| 2. 看護学科の学生定員の適正化に向けた取組        |                                                                 |    |                                                                     |                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                         |
| 53                            | 看護学科の学生定員の適正化、及び同学科における新たな取組みの可能性を検討し、結果に応じて対応する。               | 91 | 入学試験の出願状況、入学者数の推移、及び他大学の学生確保の状況を踏まえ、看護学科の学生定員の見直しを検討し、結論に即して対応する。   | <b>【学生定員の適正化の取組み】</b><br>■看護学科の学生定員の見直しについて、文部科学省等への変更承認申請手続きを行う。                                                                                                                  | A<br><br>・2026 年度募集に向けて、入学定員に係る変更承認申請手続きを行ったことから、今後、定員減に伴う新たな取組の検討を進める。                                                                                                                 |
| 3. その他追加計画                    |                                                                 |    |                                                                     |                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                         |
| 54                            |                                                                 | 92 | 本学の所在地域における学生による正課内外の社会活動を推進し、教育学習活動と地域貢献活動の連結を図る取組を検討し、結果に応じて対応する。 | <b>【学生による正課内外の社会活動・教育学習活動・地域貢献活動の取組み】</b><br>■例年取り組んでいる小学校授業ボランティアを今年度も実施した。8～9 月の期間に 15 名の教職課程学生が複数小学校において授業ボランティアを行った。春季についても実施を予定。この取組みは学校側のニーズでもあり、地域貢献としても学生自身の教師体験としても意義がある。 | A<br><br>・規模及び活動内容も含めて継続発展させていく。<br>・学生の居住場所を生かした小学校授業ボランティアを広げるべく市内の小中学校との連携を深める。                                                                                                      |